

# 教 授 要 目

付 研究指導要項

昭 和 4 4 年 度

小 樽 商 科 大 学

# 小樽商科大学教授要目

## 目 次

I 授業科目履修方法	1
1 昭和44年度開講科目	1
2 履修方法	6
3 科目試験の受験について	26
II 教授要目	27
1 一般教育科目	27
2 外国語科目	33
3 保健体育科目	41
4 基礎教育科目	44
5 専門教育科目	46
6 教職科目	79
III 研究指導要項	84

# I 授業科目履修方法

1. 昭和44年度の開講科目は次のとおりである。

区分	授業科目	単位	配当年次	基次	担当教官	備考	
一般教育科目	人文科学系	哲学	4	II	川村教授		
	倫理	4	III	川村教授			
	心理学	4	I	増山助教			
	歴史	4	II	阿部助教			
	日本文学	4	I	細谷教授			
	外国文学	4	I・II	脇松	田本教授		
	英文学	4	II・III				
	社会科学系	※社会学	2	II	中野講師	東京教育大学文学部教授	
	社会思想史	4	I	奥山講師	北海道大学文学部助教		
	教育学	4	III	田中教授			
法学(日本国憲法2学位を含む)	4	I	(前期)加藤助教 (後期)桑原教授	北海道大学法学部教授			
政治学	4	III	(前期)松沢講師 (後期)小川講師	北海道大学法学部教授			
自然科学系	物理学	4	I	原田助教			
自然科	4	II	原田助教				
概論	4	I	斎藤教授				
外国語科目	英語	英語 { I II III	4 4 2	I II III	(備考参照)		
	英語以外の外国語	独語 { I II	4 4	I II		小野講師 小金田講師	北海道大学文学部講師 北海道大学文学部外国人教師
		仏語 { I II	4 4	I II		目黒助教 中山講師	北海道大学文学部講師
		中国語 { I II	4 4	I II		川上教授	
		露語 { I II	4 4	I II		松本教授	

保健体育	体育実技	{ I } { II }	2×2/3 2×1/3	I II	杉山助教 藤江助教 中川講師	小樽商業高等学校 教諭 小樽協会病院内科 医長
	体育講義		2	II	前期前半 藤江助教 前期後半 八田講師	
基礎科目	経済学概論		4	I	前期 早見助教 後期 藤井教授	
	商学概論		4	I	前期 伊藤教授 後期 石河教授	
	管理科学概論		4	I	古瀬教授	
	数学		4	I	武隈教授	
専門科目	統計学	統計学	4	II	竹内教授	
	理学第一 理論経済	経済原論	4	II	藤井教授	
		経済変動論	4	III	増井助教	
	理学第二 理論経済	経済学特殊問題	4	III	降旗講師	(北海道大学経済学部 助教授)(前期)
		計量経済学	4	III	松田助教	
	経済史	経済史概論	4	II	井上助教	41年度以前入学生にと つては「経済学科のみ」 の科目
		日本経済史	4	III	安孫子教授	
	経済政策	経済政策	4	III	望月助教	
		農業経済学	4	IV	崎浦講師	(北海道大学農学部 教授) 41年度以前入 学生にとっては「経済 学科のみ」の科目
		社会政策	4	III	吉武教授	41年度以前入学生 にとっては「経済学科 のみ」の科目。
財政学	財政学	4	IV	早見助教		
国際経済	国際経済論	4	III	麻田教授		
国際金融	※国際金融論	2	IV	足立講師	東京銀行調査部	

金融	金融経済論	4	III	漆崎助教	
	銀行論	4	IV	漆崎助教	
	経済学科研究指導	12	III・IV	(備考参照)	
商学	マーケティング	4	II	片桐講師	小樽商大短期大学 部講師
	商業英語	4	III	木曾講師	小樽女子短期大学 教授
交際通論	保険論	4	IV	田村講師	
証券市場論	証券市場論	4	III	石原助教	
	証券金融論	4	IV	鈴木助教	
	有価証券論	4	III	石原助教	
経営管理論	経営学総論	4	II	伊藤教授	大阪市立大学商 学部教授 神戸大学経営学部教授 41年度入学生以前にと つては「商業学科のみ」 の科目。
	※企業形態論	2	III	儀我講師	
	労務管理 (工場経営)	4	III	篠崎助教	
	※財務管理	2	IV	森昭夫	
簿記学	簿記学	4	II	久野助教	41年度以前入学生にと つては「商業学科のみ」 の科目
	原価計算	4	III	久野助教	
	経営統計学 (商業数学)	4	III	武隈教授	
会計学	会计学	4	III	石河教授	
	監査論	4	IV	石河教授	
	管理会計	4	IV	河野助教	
	外国書講読	4	III	篠崎助教 河野助教	
	商業学科研究指導	12	III・IV	(備考参照)	
管理科学	※管理科学(経済II)	2	IV	穂鷹講師	(日本ソフトウ エアKK)
	管理科学 I	4	III	戸島助教	
	管理科学(生産II)	2	IV	古瀬教授	(前期)
	管理科学 II	4	III	古瀬教授	
	管理科学特講 I	3	IV	清水川助教	(前期)

専 門 教 育 科 目	機会 機械 化計	機械化会計	6	Ⅲ	藤田助教授		
		事務機械化	6	Ⅱ	藤田助教授		
	応 用 数 学		応用数学(代数)	6	Ⅱ	沼田助教授	
			"(解析)	6	Ⅱ	未定	
			"(統計Ⅰ)	6	Ⅲ	神田助教授	
			"(Ⅱ)	6	Ⅲ	神田助教授	
			応用数学特構Ⅱ	3	Ⅱ	沼田助教授	(後期)
	数計 値算		計算機論Ⅰ	6	Ⅱ	清水川助教授	
			"Ⅱ	6	Ⅲ	戸島助教授	
	教 育		管理科学研究指導	8	Ⅳ	(備考参照)	
			管理科学研究指導Ⅰ	12	Ⅲ・Ⅳ		
			Ⅱ	12	Ⅲ・Ⅳ		
			機械化会計研究指導	12	Ⅲ・Ⅳ		
	法 学 第 一		憲法	2	Ⅱ	秋山義昭	(後期)小樽商科大学短期大学部講師
			民法Ⅰ	4	Ⅱ	中川助教授	
			民法Ⅱ	4	Ⅲ	中川助教授	
			労働法	4	Ⅲ	加藤助教授	
	法 学 第 二		商法Ⅰ	4	Ⅲ	實方学長	北海道大学法学部教授(前期)
			商法Ⅱ	4	Ⅳ	斎藤講師	
経済法			4	Ⅳ	丹宗講師		
国 際 法		国際法	4	Ⅲ	桑原教授	(後期)	
		国際機構論	4	Ⅳ	大谷講師		
		法学関係研究指導	12	Ⅲ・Ⅳ	(備考参照)		
教 職	教 職 に 関 す る 専 門 科 目	教育原理	4	Ⅲ	田中教授	「教育学」で振替える。	
		教育心理学	4	Ⅱ	若井講師	北海道大学教育学部講師	
		商業科教育法	2	Ⅲ	渡辺講師	札幌大学教養部講師(前期)	
		※教育実習	2	Ⅳ	石河教授		
		教育史	4	Ⅱ	田中教授		

科 目	商業科 英語科	職業指導	4	Ⅲ	石井講師	北海道教育大学札幌分校教授
		英語(上級Ⅰ)	4	Ⅲ	武本助教授	北海道大学文学部助教授 「英文学」で振替える
		"(Ⅱ)	4	Ⅲ	永原助教授	
		英語学Ⅰ	4	Ⅲ	岡野講師	
		英文学Ⅰ	4	Ⅰ	脇田教授	

備考

- ※印は、集中講義の科目を示す。
- 英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの担当教官は次のとおりである。  
脇田教授、武本助教授、永原助教授、宮岡助教授、島村講師、菅原講師、北村講師(小樽商大短大教授)、ランダ外国人教師、メトカーフ外国人講師。
- 研究指導担当教官は次のとおりである。
  - 経済学科関係：  
麻田教授、安孫子教授、竹内教授、藤井教授、吉武教授、漆崎助教授、早見助教授、松田助教授、井上助教授、武隈教授
  - 商業学科関係：  
石河教授、伊藤教授、斎藤要教授、石原助教授、久野助教授、河野助教授、篠崎助教授、鈴木助教授、増山助教授、武隈教授
  - 法学関係：  
桑原教授、加藤助教授、中川助教授、斎藤武講師
  - 管理科学科関係：一ゼミの主たる指導教官一  
古瀬教授、沼田助教授、藤田助教授、戸島助教授
- 表中、備考欄における「経済学科のみ」とは、商業学科の学生が履修しても卒業所要単位には算入されない(ただし、履修は本人の自由である。)。同様に「商業学科のみ」とは、経済学科の学生が履修しても卒業所要単位には算入されない。
- 英語(上級Ⅰ)、英語(上級Ⅱ)、英語学Ⅰ、および英文学Ⅰは高等学校英語2級普通免許状取得のための必修科目であると共に、一般学生の課外科目としての履修参加も認められる。  
また、英文学Ⅰは一般教育科目の外国(英)文学とに分かれているが同じ講義であり、履修生の希望によりどちらかの単位になる。
- 教育学は、履修生の希望により「教育原理」に振替えることができる。

## 2 履修方法

学生は4年間在学し、次の事項に示された単位を修得することによって卒業資格が与えられる。

### (1) 単位修得要領

各自が所属しようとする学科の卒業所要単位一覧表が別表としてA表からK表に分かれて掲げられているから、それぞれの表と「1」の昭和44年度開講科目とで本年度の履修科目を検討し、履修届を提出しなければならない。

なお、表中の単位数は最低所要の単位数を示したものであるから履修の検討には十分な注意を必要とする。

- (2) A表からE表までは昭和42年度以降入学者に適用されるものであり、それぞれ学科別に分かれているから学科所属を決めた場合にはそれぞれの表が適用される。なお、別表AからFまでを参照すること。
- (3) F表は昭和42年度以降入学者で商業教員養成課程以外の学科に所属しようとする学生で高等学校商業二級普通免許状の取得を希望する学生はこのF表の単位をも修得しなければならない。
- (4) G表は昭和42年度以降入学者で高等学校英語二級普通免許状の取得を希望する学生はこのG表の単位をも修得しなければならない。
- (5) H表は昭和41年度以前入学者（昭和41年度入学者で管理科学科に属する者を除く。）に適用し、I表は昭和40・41年度入学者で管理科学科に所属する学生に適用する。
- (6) J表は昭和41年以前入学者で、商業教員養成課程（教職課程）の履修を条件とした入学者と、この課程以外の学生で高等学校商業二級普通免許状の取得を希望する学生はこのJ表の単位をも修得しなければならない。  
(注) 教職課程の学生はこのJ表の単位を修得することが卒業のための要件となっている。
- (7) K表は昭和41年度以前入学者で高等学校英語二級普通免許状の取得を希望する学生はこのK表の単位をも修得しなければならない。
- (8) 文学の単位は日本文学、外国文学のうち、いずれか1科目だけが卒業のための所要単位に算入される。

(9) 昭和42年度以降入学者の英語（I・II・III）は1年次毎週4時間4単位、2年次毎週4時間4単位、3年次毎週2時間2単位、合計10単位が必修となる。昭和40年度、昭和41年度の入学者の英語（I・II）は1年次毎週7時間7単位、2年次毎週6時間6単位、計13単位が必修となる。（ただし、昭和39年度以前入学者は従前どおり12単位である。）

- (10) 英語以外の外国語（独・仏・中・露語）は、いずれか1カ国語を選択必修とし、1年次毎週4時間4単位、2年次毎週4時間4単位、計8単位を履修しなければならない。ただし、昭和41年度以前入学者の西語（II）の履修については特別な措置が講ぜられる。
- (11) 保健体育科目の実技2単位については昭和42年度以降入学者は1年次毎週2時間2単位の $\frac{2}{3}$ 、2年次隔週に2時間2単位の $\frac{1}{3}$ 、計2単位が必修となる。
- (12) 数値解析は今年度開講しないから、「単位」必要者は管理科学Iを数値解析に代替することができる。
- (13) 「経営学原理」の授業科目は、昭和43年度以前入学者は、「経営学総論」と読み替える。
- (14) 研究指導を履修する学生は毎週3時間3年次から2カ年継続授業で12単位（卒業論文を含む）を履修しなければならない。この12単位は昭和42年度以降入学者にあってはそれぞれ所属する学科で履修しなければならない専門教育科目80単位の中に含まれている。昭和41年度以前入学者にあっては履修しなければならない専門教育科目にそれぞれ含まれている。ただし、教員養成課程にあっては他の学科の研究指導を履修しなければならない。

研究指導を履修しない学生は研究指導12単位分を所属する学科の専門教育科目の履修によって充足しなければならない。教員養成課程にあつては他の学科科目によつて充足しなければならない。

昭和42年度以降入学者で管理科学科に所属しようとする学生の研究指導12単位は必修である。昭和40・41年度入学者で管理科学に所属しようとする学生は4年次において8単位が必修となる。

A表 経済学科（昭和42年度以降入学者対象）

区 分	科目数等	単位数	必修とする科目
一般教育科目	人文科学系	3 科目	12
	社会科学系	2 科目	8
	自然科学系	2 科目	8
	計	7 科目	28
外国語科目	英語(I・II・III)を含め2カ国語	18	英語(I・II・III) 英語以外の外国語のうち1科目
保健体育科目	2 科目	4	実技, 講義
基礎教育科目	4 科目	16	経済学概論, 商学概論 管理科学概論, 数学
専門教育科目		80	統計学, 経済原論, 経済史概論, 経営学原理, 会計学, 民法I, 商法I
卒業所要単位数(計)		146	
備考 専門教育科目のうち選択科目の単位修得方法については学則14条別表第2「(2)イ, 経済学科」による。別表Bを参照。			

B表 商業学科（昭和42年度以降入学者対象）

区 分	科目数等	単位数	必修とする科目
一般教育科目	人文科学系	3 科目	12
	社会科学系	2 科目	8
	自然科学系	2 科目	8
	計	7 科目	28
外国語科目	英語(I・II・III)を含め2カ国語	18	英語(I・II・III) 英語以外の外国語のうち1科目
保健体育科目	2 科目	4	実技, 講義
基礎教育科目	4 科目	16	経済学概論, 商学概論 管理科学概論, 数学
専門教育科目		80	マーケティング, 経営学原理, 労務管理, 簿記学, 会計学, 統計学, 経済原論, 民法I, 商法I
卒業所要単位数(計)		146	
備考 専門教育科目のうち選択科目の単位修得方法については学則14条別表第2「(2)ロ, 商業学科」による。別表Cを参照。			

C表 管理科学科〔管理科学コース〕（昭和42年度以降入学者対象）

区 分	科目数等	単位数	必修とする科目
一般教育科目	人文科学系	3 科目	12
	社会科学系	2 科目	8
	自然科学系	2 科目	8
	計	7 科目	28
外国語科目	英語(I・II・III)を含め2カ国語	18	英語(I・II・III) 英語以外の外国語のうち1科目
保健体育科目	2 科目	4	実技, 講義
基礎教育科目	4 科目	16	経済学概論, 商学概論 管理科学概論, 数学
専門教育科目		80	研究指導(管理科学研究指導Iまたは管理科学研究指導II) 統計学, 経済原論
卒業所要単位数(計)		146	
備考 専門教育科目のうち選択科目の単位修得方法については学則第14条別表第2「(2)ハ, 管理科学科〔管理科学コース〕」による。別表Dを参照			

D表 管理科学科〔機械化会計コース〕（昭和42年度以降入学者対象）

区 分	科目数等	単位数	必修とする科目
一般教育科目	人文科学系	3 科目	12
	社会科学系	2 科目	8
	自然科学系	2 科目	8
	計	7 科目	28
外国語科目	英語(I・II・III)を含め2カ国語	18	英語(I・II・III) 英語以外の外国語のうち1科目
保健体育科目	2 科目	4	実技, 講義
基礎教育科目	4 科目	16	経済学概論, 商学概論 管理科学概論, 数学
専門教育科目		80	研究指導(機械化会計研究指導), 統計学, 経済原論, 簿記学, 会計学
卒業所要単位数(計)		146	
備考 専門教育科目のうち選択科目の単位修得方法については学則第14条別表第2「(2)ハ, 管理科学科〔機械化会計コース〕」による別表Eを参照			

E表 商業教員養成課程 (昭和42年度以降入学者対象)

区 分	科目数等	単位数	必修とする科目
一般教育科目	人文科学系	3 科目	12
	社会科学系	3 科目	12
	自然科学系	3 科目	12
	計	9 科目	36
外国語科目	英語 (I・II・III) を含め2カ国語	18	英語 (I・II・III) 英語以外の外国語のうち1科目
保健体育科目	2 科目	4	実技, 講義
基礎教育科目	2 科目	8	商学概論, 管理科学概論
専門教育科目		60	統計学, 経済原論, 経営学原理, 簿記学, 会計学, 民法 I, 商法 I
教職科目	6 科目	20	教育原理, 教育心理学, 商業科教育法, 教育実習, 教育史, 職業指導
卒業所要単位数 (計)		146	
備考 専門教育科目のうち必修科目以外の科目の履修は, 経済学科, 商業学科, 管理科学科, 法律関係科目の全科目から履修することができる。別表 F を参照,			

F表 商業科教員免許資格取得希望者 (昭和42年度以降入学者対象)

区 分	単位数	必修とする科目
一般教育科目 (社会科学系)		法学 (日本国憲法 2 単位を含む)
教職に関する専門科目	16	教育原理4単位, 教育心理学4単位, 商業科教育法 2 単位, 教育実習 2 単位, 教育史 4 単位
教科に関する専門科目	4	職業指導
合 計	20	
備考 この表は商業教員養成課程以外の学科に所属する学生に適用するもので, それぞれの学科の卒業所要単位数のほかに上記の単位数を修得しなければならない。		

G表 英語科教員免許資格取得希望者 (昭和42年度以降入学者対象)

区 分	単位数	必修とする科目	選 択 科 目
一般教育科目 (社会科学系)		法学 (日本国憲法 2 単位を含む)	
教科に関する専門科目	32	英語(上級 I), (上級 II) (12) // (上級 III) (上級 IV) (単位) 英語学 I, 英語学 II (16) 英文学 I, 英文学 II (単位)	商業英語 4 単位
教職に関する専門科目	17	教育原理4単位, 教育心理学4単位, 英語科教育法3単位, 教育実習2単位, 教育史4単位	
合 計	49		
備考 1. それぞれ所属する学科の卒業所要単位数のほかに上記単位数を修得しなければならない。ただし, 商業教員養成課程の学生は, 教科に関する専門科目の単位数と, 教職に関する専門科目のうち英語科教育法を修得すればよい。 2. 教職に関する専門科目のうち「教育原理」「教育心理学」「教育実習」「教育史」は, F表, G表双表の場合に併用できる。			

H表 経済学及び商業学科 (昭和41年度以前入学者対象)

系 列	科目数等	単位数	必修とする科目
一般教育科目	人文科学系	3 科目	12
	社会科学系	3 科目	12
	自然科学系	3 科目	12
	計	9 科目	36
外国語科目	英語 (I・II) を含め2カ国語	21 (20)	英語 (I・II) を含め2カ国語
保健体育科目	2 科目	4	実技, 講義
専門教育科目		84	統計学, 経済原論, 経済史概論, 経営学原理, 簿記学, 会計学, 民法 I, 商法 I
卒業所要単位数 (計)		145 (144)	
備考 単位数(20)(144)は, 昭和39年度以前の入学者のみ適用する。			



I表 管理科学科 (昭和40・41年度入学者対象)

区 分	科目数等	単位数	必修とする科目
一般教育科目	人文科学系	3科目	12
	社会科学系	3科目	12
	自然科学系	3科目	12
	計	9科目	36
外国語科目	英語(I・II)を含め2カ国語	21	英語(I・II)を含め2カ国語
保健体育科目	2科目	4	実技, 講義
専門教育科目		102	管理科学概論▲応用数学(代数I)▲応用数学(代数II)▲応用数学(解析I)▲応用数学(解析II)・応用数学(統計I)・応用数学(統計II), 統計学, 経済原論計量経済学, 簿記学, 研究指導 「▲管理科学(生産I)・管理科学(生産II)」 「▲管理科学(販売I), ▲管理科学(販売II)」 「▲管理科学(経済I)・管理科学(経済II)」 上記3科目群のうち, いずれか2科目群 ▲「計算機プログラム▲数値計算・▲数値解析」, 「機械化会計・事務機械化・情報処理」 上記2科目群のうち, いずれか1科目群
卒業所要単位数(計)		163	
備考 専門教育科目における必修とする科目の欄のうち, 科目群とは「」内に掲げられた一連の授業科目といい, その指定するところにより選択した「」内の科目は, そのすべてを必修する。 ▲印の科目については本年度開講しない。			

J表 商業教員養成課程および商業科教員免許資格取得希望者

(昭和41年度以前入学者対象)

系 列	単位数	必修とする科目	選択科目
一般教育科目 (社会科学系)	✓	法学 (日本国憲法) (2単位を含む)	
教職に関する専門科目	14	教育原理 3単位 教育心理 3" 商業科教育法 3" 教育実習 2"	▲教育社会学 3単位 教育史 3" ▲教育統計 3"
教科に関する専門科目	4	職業指導	
合計	18		
備考 それぞれ所属する学科の卒業所要単位数のほかに上記単位数を修得しなければならない。▲印は, 本年度開講しない。			

K表 英語科教員免許資格取得希望者 (昭和41年度以前入学者対象)

系 列	単位数	必修とする科目	選択科目
一般教育科目 (社会科学系)		法学 (日本国憲法) (2単位を含む)	
教科に関する専門科目	24	英語 (上級I) } 12単位 " (上級II) } " (上級III) } " (上級IV) } 英語学 I } 12単位 " II } (英文学 英文学 I } 8単位を " II } 含む。)	
教職に関する専門科目	14	教育原理 3単位 教育心理 3" ▲英語科教育法 3" 教育実習 2"	▲教育社会学 3単位 教育史 3" ▲教育統計 3単位
合計	38		
備考 それぞれ所属する学科の卒業所要単位数のほかに上記単位数を修得しなければならない。但し, 商業教員養成課程の学生は教科に関する専門科目の単位数と英語科教育法を修得すればよい。▲印は, 本年度開講しない。			

一般教育科目、外国語科目、保健体育科目および基礎教育科目の履修  
別表A 方法

イ. 経済学科、商業学科および管理科学科

区 分	単位数	必修とする科目	
一般教育科目	人文科学系	12	3科目以上
	社会科学系	8	2科目以上
	自然科学系	8	2科目以上
	計	28	7科目以上
外国語科目	18	{英語(I・II・III) 英語以外の外国語(5科目)のうち、い ずれか1科目	
保健体育科目	4	実技, 講義	
基礎教育科目	16	経済学概論, 商学概論, 管理科学概論, 数学	
合 計	66		
備考 1. 一般教育科目(人文科学系)のうち, 日本文学および外国文学の単位については, そのいずれか1科目のみを卒業所要単位数に算入する。			
2. 高等学校教諭商業, 英語二級普通免許状の取得を希望し, それに必要な単位を取得した者が, 当該免許状の申請をする場合には基礎教育科目のうち「経済学概論」を社会科学系の, 「数学」を自然科学系の一般教育科目の単位に充てることができる。			

ロ. 商業教員養成課程

区 分	単位数	必修科目	
一般教育科目	人文科学系	12	3科目以上
	社会科学系	12	経済学概論, 法学(日本国憲法2単位を含む。)含め3科目以上
	自然科学系	12	数学を含め3科目以上
	計	36	9科目以上
外国語科目	18	{英語(I・II・III) 英語以外の外国語(5科目)のうち, いずれか1科目	
保健体育科目	4	実技, 講義	
基礎教育科目	8	商学概論, 管理科学概論	
合 計	66		
備考 一般教育科目(人文科学系)のうち, 日本文学および外国文学の単位については, そのいずれか1科目のみを卒業所要単位数に算入する。			

別表B 経済学科一専門教育科目履修方法

必修科目		選 択 科 目		法 学 関 係 の 授 業 科 目		計	
授業科目	単位数	経済学科の授業科目	単位数	管理科学の授業科目	単位数	法学関係の授業科目	単位数
統計学	4	数理統計学	4	管理科学 I	4	憲法	4
経済学原論	4	経済統計学	4	管理科学 II	4	民法	4
経済史概論	4	経済変動論	4	管理科学 I 講	4	労働法	4
経営学原理	4	経済学史	4	管理科学 II 講	4	商法	4
会計学 I	4	経済問題学	4	管理科学 III 講	4	経済法	4
民法 I	4	特殊計量経済学	4	管理科学 IV 講	4	国際法	4
		経済政策	4	機械化会計	6	国際機械論	4
		日本経済学	4	事務機械化	6		
		工業経済学	4	情報処理	6		
		農業経済学	4	応用数学(代数)	6		
		社会政策学	4	応用数学(解析)	6		
		財政学	4	応用数学(統計 I)	6		
		国際経済学	4	応用数学(統計 II)	6		
		貿易政策	4	応用数学特講 I	3		
		国際金融論	4	応用数学特講 II	3		
		金融経済論	4	計算機論 I	6		
		銀行論	4	計算機論 II	6		
				マーケティング	4		
				販売管理	4		
				商品学	4		
				貿易論	4		
				英論	4		
				通論	4		
				陝論	4		
				市場論	4		
				証券論	4		
				証券融論	4		
				海外証券事情	4		
				企業分析	4		
				有価証券論	4		
				企業形態論	4		
				経営学説史	4		
				経営学説史	4		
				労務管理	4		
				生産管理	4		
				財務管理	4		
				産業心理学	4		
				簿記学	4		
				簿記演習	4		

原価計算	4				
経営統計学	4				
監査論	4				
管理会計	4				
外国書講読	4				
28	24	16	12	80	
卒業所要単位数 146					
備考 研究指導を履修しない者は、経済学科の科目について「研究指導12単位に相当する単位を修得しな ければならない。					

別表C 商業学科—専門教育科目履修方法

必修科目	選 目				択 目				計		
	授業科目 単位数	商業学科の 授業科目 単位数	経済学科の 授業科目 単位数	管理科学科 の授業科目 単位数	法学関係の 授業科目 単位数	商業学科 研究指導 単位数	研究指導 単位数	研究指導 単位数			
マーケティング	4	販売管理	4	数理統計学	4	管理科学I	4	憲法	4	商業学科	
経営学原理	4	商品論	4	経済統計学	4	管理科学II	4	民法	4	研究指導	12
労務管理	4	貿易英語	4	経済変動論	4	管理科学I	4	労働法	4	または法	
簿記学	4	商業通論	4	経済学	4	管理科学II	4	商法	4	学関係研	
会計学	4	交際論	4	経済問題	4	管理科学III	4	経法	4	究指導	
統計学	4	保険論	4	特殊経済	4	管理科学IV	4	国際法	4		
統計学	4	証券市場論	4	計量経済学	4	管理科学I	4	国際機構論	4		
経済学	4	証券金融論	4	経史概論	4	機械化会計	6				
民法	4	海外証券事情	4	日本経済史	4	事務機械化	6				
商法	4	企業分析	4	経政策	4	情報処理	6				
		有価証券論	4	工業経済学	4	応用数学(代數)	6				
		企業形態論	4	農業経済学	4	応用数学(解析)	6				
		経営学	4	社会政策学	4	応用数学(統計I)	6				
		経営学	4	財政学	4	応用数学(統計II)	6				
		生産管理	4	国際経済論	4	応用数学特講I	3				
		財務管理	4	貿易政策	4	応用数学特講II	3				
		産業心理学	4	国際金融論	4	計算機論I	6				
		簿記演習	4	金融経済論	4	計算機論II	6				
		原価計算	4	銀行論	4						
		経営統計学	4								
		監査論	4								

管理会計	4								
外国書講読	4								
機械化会計	6								
計算機論I	6								
36	20	12	12	80					
卒業所要単位数		146							

備考：研究指導を履修しない者は、商業学科の科目について「研究指導」12単位に相当する単位を修得し  
なければならぬ。

別表D 管理科学科(管理科学コース) — 専門教育科目

必修科目		選 択			科 目				計		
授業科目	単位数	管理科学科の授業科目		経済学科の授業科目	商業学科の授業科目		法学関係の授業科目			経済学科の授業科目	
		単位数	単位数	単位数	単位数	単位数	単位数	単位数	単位数		
統計学	4	管理科学 I 特講	3	管理科学 I	4	マーケティング	4	憲法	4	数理統計学	4
経済原論	4	管理科学 II 特講	3	管理科学 II	4	販売管理学	4	民法 I	4	経済統計学	4
研究指導	12	管理科学 III 特講	3	管理科学 I 特講	3	商品学論	4	民法 II	4	経済変動論	4
		管理科学 IV 特講	3	管理科学 II 特講	3	貿易英語	4	労働法	4	経済学史	4
		応用数学 (代数)	6	管理科学 III 特講	3	商業英通論	4	商法 I	4	経済学特殊問題	4
		応用数学 (解析)	6	管理科学 IV 特講	3	交 通 論	4	商法 II	4	計量経済学	4
		応用数学 (統計 I)	6	機械化会計	6	保 険 論	4	経 済 法	4	経済史概論	4
		応用数学 (統計 II)	6	事務機械化	6	証 券 論	4	国 際 法	4	日本経済史	4
		応用数学 I 特講	3	情報処理	6	証 券 金 融 論	4	国 際 法 論	4	経済政策	4
		応用数学 II 特講	3	応用数学 (代数)	6	海外証券事情	4	国 際 機 構 論	4	工業経済学	4
		計算機論 I	6	応用数学 (解析)	6	企業分析論	4			農業経済学	4
		計算機論 II	6	応用数学 (統計 I)	6	有 価 証 券 論	4			社会政策	4
				応用数学 (統計 II)	6	経営学原理	4			財政学	4
				応用数学 I 特講	3	企業形態論	4			国際経済論	4
				応用数学 II 特講	3	経営学説史	4			貿易政策	4
				計算機論 I	6	労働管理	4			国際金融論	4
				計算機論 II	6	生産管理	4			金融経済論	4
						財務管理	4			銀行論	4
						産業心理学	4				
						簿記学	4				
						簿記演習	4				
						原価計算	4				
						経営統計学	4				
						会計学	4				
						監査論	4				
						管理会計	4				
						外国書講読	4				
		20	36	8						16	80

備考： 1 研究指導について「管理科学研究指導 I」または「管理科学研究  
 2 「管理科学研究指導 I」の履修者は「管理科学 I」の、「管理科

指導 II」を履修しなければならない。  
 学科学研究指導 II」の履修者は「管理科学 II」の単位を修得することができない。

別表E 管理科学科（機械化会計コース）—専門教育科目履修方法

必修科目		選 択			
授業科目	単位数	管理科学科の授業科目		経済学科の授業科目	
		単位数	単位数	単位数	単位数
統計学	4	機械化会計	6	管理科学 I	4
経済原論	4	事務機械化	6	管理科学 II	4
簿記学	4	情報処理	6	管理科学 I	3
会計学	4	計算機論 I	6	管理科学 II	3
研究指導	12	計算機論 II	6	管理科学 III	3
		管理科学 I	3	管理科学 IV	3
		管理科学 II	3	応用数学 (代数)	6
		管理科学 III	3	応用数学 (解析)	6
		管理科学 IV	3	応用数学 (統計 I)	6
				応用数学 (統計 II)	6
				応用数学 I	3
				応用数学 II	3
				数理統計学	4
				経済統計学	4
				経済変動論	4
				経済学史	4
				経済学問題	4
				計量経済学	4
				経済史概論	4
				日本経済史	4
				経済政策	4
				工業経済学	4
				農業経済学	4
				社会政策	4
				財政学	4
				国際経済論	4
				貿易政策	4
				国際金融論	4
				金融経済論	4
				銀行論	4
	28	24		12	
卒業所要					
備考： 研究指導については、「機械化会計研究指導」を履修しなければならない。					

科 目				計	
商業学科の授業科目		法学関係の授業科目		商業学科の授業科目	
単位数	単位数	単位数	単位数	単位数	
マーケティング	4	憲法	4	マーケティング	4
販売管理	4	民法 I	4	販売管理	4
商品学	4	民法 II	4	商品学	4
貿易英語	4	労働法	4	貿易英語	4
通商論	4	商法 I	4	通商論	4
保険論	4	商法 II	4	保険論	4
証券市場論	4	国際法	4	証券市場論	4
海外証券事情	4	国際機構論	4	海外証券事情	4
企業分析	4			企業分析	4
有価証券論	4			有価証券論	4
経営学原理	4			経営学原理	4
企業形態論	4			企業形態論	4
経営学説史	4			経営学説史	4
労務管理	4			労務管理	4
生産管理	4			生産管理	4
財務管理	4			財務管理	4
産業心理学	4			産業心理学	4
簿記学	4			簿記学	4
簿記演習	4			簿記演習	4
原価計算	4			原価計算	4
経営統計学	4			経営統計学	4
会計学	4			会計学	4
監査論	4			監査論	4
管理会計	4			管理会計	4
外国書講読	4			外国書講読	4
					16
単 位 数				80	
卒業所要				146	
備考： 研究指導については、「機械化会計研究指導」を履修しなければならない。					

別表F 商業教員養成課程—専門教育科目履修方法

必修科目		選	
専門教育科目	単位数	教職科目	単位数
統計学	4	教育原理	4
経済原論	4	教育心理学	4
経営学原理	4	商業科教育法	2
簿記学	4	教育史	4
会計学	4	教育実習	2
民法I	4	職業指導	4
商法I	4		
		経済学科の授業科目	単位数
		商業学科の授業科目	単位数
		数理統計学	4
		マーケティング	4
		経済統計学	4
		販売管理学	4
		経済変動論	4
		商品学論	4
		経済学史	4
		商業英語論	4
		経済学特殊問題	4
		交通論	4
		計量経済学	4
		証券市場論	4
		経済史概論	4
		証券金融論	4
		日本経済史	4
		海外証券事情	4
		経済政策	4
		企業分析	4
		工業経済学	4
		有価証券論	4
		農業経済学	4
		企業形態論	4
		社会政策	4
		経営史	4
		財政学	4
		経営学説史	4
		国際経済論	4
		労働管理	4
		貿易政策	4
		生産管理	4
		国際金融論	4
		財務管理	4
		金融経済論	4
		産業心理学	4
		銀行論	4
		簿記演習	4
		原価計算	4
		経営統計学	4
		監査論	4
		管理会計	4
		外国書講読	4
	28	20	20

卒業所要

備考： 1 研究指導については、経済学科研究指導・商業学科研究指導・管理科学研究指導のうちいずれかひとつを履修するものとする。  
2 研究指導を履修しない者は、経済学科、商業学科、管理科学科おそれなければならない。

択			科			目			計
管理科学の授業科目	単位数	法学関係の授業科目	単位数	研究指導	単位数				
管理科学I	4	憲法	4	備考の「1」	12				
管理科学II	4	民法II	4	を参照のこと。					
管理科学特講I	3	労働法	4						
管理科学特講II	3	商法II	4						
管理科学特講III	3	経済法	4						
管理科学特講IV	3	国際法	4						
機械化会計	6	国際機構論	4						
事務機械化	6								
情報処理	6								
応用数学(代数)	6								
応用数学(解析)	6								
応用数学(統計I)	6								
応用数学(統計II)	6								
応用数学特講I	3								
応用数学特講II	3								
計算機論I	6								
計算機論II	6								
				12	80				
単位数						146			

管理科学研究指導I・管理科学研究指導II・機械化会計研究指導および法学関係および法学関係の科目について、「研究指導」12単位に相当する単位を修得しな

### 3 科目試験の受験について

定期試験（前期，後期）およびこれに準ずる試験を受験する場合，次の注意事項を厳守して，不利益をうけることのないよう十分留意してください。

#### ★受験に際しての注意事項（科目試験実施要項の要約）

1. 指定された席に着席すること。（指定の席は，受験届の提出により決定され，また試験開始5分前には着席し，待機すること。）
2. 身分証明書の携帯がなければ受験できない。
3. 試験時刻におくれた者は原則として受験できない。ただし，20分以内の遅刻者は，事情により監督者の許可を受けて受験できる場合もある。
4. 試験開始20分以内は退場できない。
5. 試験終了10分前以後は退場できない。
6. 教科書，参考書，ノートなどの不要の所持品は鞆等に納め，机の中にそれらを入れないこと。
7. 教科書，参考書，ノートなどの参照を許された試験においては，それらの貸借を禁止する。受験生の間で，貸借のあった場合は，それを不正行為とみなす。
8. 配布された答案用紙は必ず提出し，持ち帰ることのないこと。
9. 試験場「において，私語，その他いやしくも疑惑を招くような行為のないよう特に留意し，厳正な態度で受験すること。
10. その他試験場内において監督者の指示に従わない場合は退場させられる。

以上

## II 教授要目

### 1. 一般教育科目

#### 哲 学

教授 川 村 三千雄

1. 哲学の本質
  - (a) 哲学の意義
  - (b) 哲学的真理
2. 哲学的問題と方法
  - (a) 哲学の対象
  - (b) 哲学と科学
  - (c) 哲学と宗教
3. 哲学の根源
  - (a) 実存的精神的始源
  - (b) それに対応する史的展開
4. 哲学と人生，世界の問題

#### 倫 理 学

教授 川 村 三千雄

- (1) 倫理学の成立について
- (2) 行為について
- (3) 品性について
- (4) 自由について
- (5) 日本的，東洋的道德と，西歐的道德について
- (6) 善悪と良心の問題
- (7) 道徳と幸福
- (8) 人生観上の，諸問題について

#### 心 理 学

助教授 増 山 英太郎

歴史的に見ると，心理学は哲学から生れ，人間の意識の内視的研究から出発したのであるが，統計学や生理学からの知識及び技術の吸収によって，自



然科学に近い厳密な科学へと脱皮してきた。本年は、科学としての心理学を、随時現代心理学におけるトピックスをまじえつつ講ずる。

教科書は高木貞二編『心理学（新版）東京大学出版 320 円に指定するので、必ず購入しておくこと。

## 歴史学

助教授 阿部 謹也

### (A) 長期的目標

私達の現実認識・世界認識を深めてゆくための作業の一部として、ヨーロッパ世界像の検討をおこなうこと。具体的には(1)明治維新以来の近代歴史学の「西洋文明とは何か」という問題設定（文明史家達）から、最近の歴史学における「世界史の基本法則」，「世界史像の形成」という問題設定への変化が、それぞれ、国内のどのような要請にこたえて生まれてきたものか、を明らかにし、それらへの理解と批判をふまえて現在の日本における「ヨーロッパ史研究」の社会的意味を探ること。(2)同時に、現代ヨーロッパの研究者によるヨーロッパ像構成の2, 3の問題点を、(1)を発展させた論旨のなかで明らかにしたい。

### (B) 本年度は

封建国家論を講ずる予定である。経済史の基礎的諸概念を説明し経済史の一発展段階と国家論との接点を封建社会論に求める。まず19世紀以来のドイツ法制史家達（ゾーム、ギールケ等），更にマルクス・エンゲルスの封建社会論を経て、現在の研究段階にいたる研究史を展望し、次いで、いわゆる「近代国家」の形成を、いずれもその時々々の研究者の置かれていた社会的状況のなかで解明してゆきたい。

参考書はそのつど示すが、さしあたり、オットー・ヒンツェ『封建制の本質と拡大』，O. Brunner, Feudalismus. Eine Geschichte des Begriffs をあげておく。

## 日本文学

教授 細谷 直樹

『源氏物語』が第一部から第二部へと移る「藤裏葉」と「若菜」の巻を取

りあげ、紫式部にとって、この物語を「書く」ということが、どういう意味を持つものであったかを考えようと思う。

教科書、山岸徳平校注『源氏物語（三）』（岩波文庫）

## 英文学

教授 脇田 勇

第一次大戦後の Joyce, Woolf を中心とした「意識の流れ」派の心理主義文学，また人間の非合理の面を押し出した Lawrence, Huxley の諷刺的文学，30年代に入ってから全体主義と自由主義の対決，やがて第二次大戦の兆しが濃くなるにつれて文壇の流れも政治主義的となり Spender, Auden, C.D.Lewis 等の共産主義的詩人がクローズアップされてくる。英文学史上、これぐらい諸々の新しい実験がなされた多彩な時代はない。これらの作家，作品のうちの代表的なものを取り上げ研究してゆく計画である。

〔註〕なお使用テキストは受講が固定してから発注する。

## 露文学

教授 松本 忠司

主題 ロシヤ・インテリゲンツィヤ精神史

内容

第I部 ロシヤ・インテリゲンツィヤ史概観

- 1 問題提起
- 2 インテリゲンツィヤ成立の背景
- 3 貴族文学の理念と系譜
- 4 雑階級の文学と運動
- 5 変動期のインテリゲンツィヤ

第II部 作家論（ゴーリキイ研究）

## ※社会学

非常勤講師 中野 卓  
(東京教育大学文学部教授)

## 社会思想史

非常勤講師 奥山次良  
(北大文学部助教授)

1. 前期は、エンゲルス『空想から科学へ』の解説を中心に話しをすすめる。
2. 社会思想の歴史的知識については『社会思想史』を読んでおくこと。
3. 後期は、イデオロギー論のつもり。
4. 試験は、ペーパー・テストとグループ討論によるレポートの両方。

テキスト：(1) エンゲルス『空想から科学へ』(国民文庫)  
(2) 大河内一男『社会思想史』(有斐閣)(3)大内兵衛『マルクス・エンゲルス小伝』(岩波新書)以上3冊を買うこと。

参考文献：(1) マルクス・エンゲルス『ドイツ・イデオロギー』(国民文庫)  
(2) レーニン『われら何をなすべきか』(国民文庫)  
(3) 梅本克己『唯物史観と現代』(岩波新書)  
(4) その他、教室で随時紹介する。

## 教育学

教授 田中昭徳

- I 近代教育の思想と理念
- II 教育学理論の発展とその系譜
- III 産業と教育
- IV 経済発展と教育計画
  - 1 経済発展と世界の教育改革の動向
  - 2 教育投資論
  - 3 わが国の長期経済計画と教育計画
- V 教育政策と教育制度
- VI 教育課程
- VII わが国の教育行財政機構
- VIII 国家・国民・教育——教育は誰のためのものなのか——

## 法学

前期 助教授 加藤俊平

『法学』の前期：

人間の歴史において、資本制社会ほど、『法』あるいは『法律』と呼ばれるものが、人間の行為のすみずみまで及んでくる社会は他にその類をみない。『法』あるいは『法律』と呼ばれるものを担う制度あるいは機関が、今日の社会ほど整備され、体系化され、合理化されている社会を、われわれは他に知らない。それでわれわれは、自己の行為を選択するとき、『法』あるいは『法律』と呼ばれるものが与えている基準(価値)に、選択のよりどころを求めることが少なくない。自覚的あるいは無自覚的に。

われわれは、44年度前期、偶然に出会う教室という『場』で、この『法』あるいは『法律』と呼ばれるものの本体を発見しようと努めたい。そのための一つの素材として、マックス・ウエーバー、小野木訳『法社会学』(日評)2,000円。を利用する。

## 法学

後期 教授 桑原輝路

## 政治学

前期 非常勤講師 松沢弘陽  
(北海道大学法学部教授)

## 政治学

後期 非常勤講師 小川晃一  
(北海道大学法学部教授)

## 物理学

助教授 原田稔

現代物理学の戦略(自然に対する基本的姿勢)に重点をおいて、その基本的戦術(概念及び理論)を解説する。教科書は定めないが次に掲げるものが参考になるう：

玉木英彦・板倉聖宣著「現在物理等の基礎」(東大出版会)

アインシュタイン・インフェルト著「物理学はいかにして創られたか」上・下(岩波新書)

## 自然科学概論

助教授 原 田 稔

「科学の正体」ということを、主に物理学的側面からみた場合について考えて行きたい。

テキスト：

湯川秀樹・梅棹忠夫著「人間にとって科学とはなにか」（中央公論社）

参考書：

武谷三男編著「自然科学概論」第2巻（勁草書房）

## 化 学

教授 斉 藤 要

化学は一つの教育体系を持っておる学問であるが、それは化学を専門とする学生に対して都合よくできている。この体系を希釈したり、あるいは一部を拡大して非専門の学生に講義するのであるが、本年度は基礎化学部門としては、原子、分子特に放射性元素に関する概念及び理論を系統的に述べ、また応用化学部門としては技術革新に対応する工業化学特に石油化学の一端と、その問題点について解説し、教養の一端に資したい。

なお、教科書は使用しないが、参考書は必要に応じて紹介する。また時間が許せばモデル実験を行なう。

## 2. 外国語科目

### 英 語 (I)

(A)は講読を中心とする。(B)は口頭練習を中心とする。

[Aクラス]

(A) James Kirkup, *How I Discovered America* (英潮社) ¥ 180

助教授 武 本 昌 三

(B) Vernon Brown, *Speak English*, Vol I. (明隣堂) ¥ 300

H. M. Schafsma, *Practical Lessons in Current American English*. (旺文社) ¥ 300

外国人教師 マーク・ランダ

[Bクラス]

(A) Somerset Maugham, *Episode and the Romantic Lady*

(南雲堂) ¥ 140

教授 脇 田 勇

(B) Vernon Brown, *Speak English*, Vol I. (明隣堂) ¥ 300

H. M. Schafsma, *Practical Lessons in Current American English*. (旺文社) ¥ 300

外国人教師 マーク・ランダ

[Cクラス]

(A) James Kirkup, *How I Discovered America* (英潮社) ¥ 180

助教授 武 本 昌 三

(B) Vernon Brown, *Speak English*, Vol I. (明隣堂) ¥ 300

H. M. Schafsma, *Practical Lessons in Current American English*. (旺文社) ¥ 300

非常勤外国人講師 ステューブン・メトカーフ

[Dクラス]

(A) Somerset Maugham, *Episode and the Romantic Lady*

(南雲堂) ¥ 140

教授 脇田 勇

(B) Vernon Brown, *Speak English*, Vol I. (明隣堂) ¥ 300

H. M. Schafsma, *Practical Lessons in Current American English* (旺文社) ¥ 300

外国人教師 マーク・ランダ

[Eクラス]

(A) Stuart Chase, *The Tyranny of Words*. (松柏社) ¥ 250

講師 菅原光穂

(B) Vernon Brown, *Speak English*, Vol I. (明隣堂) ¥ 300

H. M. Schafsma, *Practical Lessons in Current American English* (旺文社) ¥ 300

外国人教師 マーク・ランダ

[Fクラス]

(A) James Kirkup, *How I Discovered America* (英潮社) ¥ 180

助教授 武本昌三

(B) Vernon Brown, *Speak English*, Vol. I. (明隣堂) ¥ 300

H. M. Schafsma, *Practical Lessons in Current American English* (旺文社) ¥ 300

非常勤外国人講師 スティーブン・メトカーフ

英語(II)

(R<sub>I</sub>) は Intensive Reading. (R<sub>E</sub>) は Extensive Reading.

[Aクラス]

(R<sub>I</sub>) Bernard Shaw, *Shaw's Guide to Socialism* (成美堂) ¥ 250

講師 島村東太郎

(R<sub>E</sub>) Max Lerner, *America as a Civilization*, Vol II, (Simon & Schuster) ¥ 1,000

講師 菅原光穂

[Bクラス]

(R<sub>I</sub>) Erich Fromm, *The Art of Loving* (松柏社) ¥ 250

助教授 永原和夫

(R<sub>E</sub>) S. Anderson, *Winesburg, Ohio* (南雲堂) ¥ 160

講師 島村東太郎

[Cクラス]

(R<sub>I</sub>) E. O. Reischauer, *Japan and America* (英宝社) ¥ 260

非常勤講師  
(小樽商大短大教授) 北村正司

(R<sub>E</sub>) Iris Murdoch, *The Italian Girl* (英宝社) ¥ 350

助教授 永原和夫

[Dクラス]

(R<sub>I</sub>) E. O. Reischauer, *Japan and America* (英宝社) ¥ 260

非常勤講師  
(小樽商大短大教授) 北村正司

(R<sub>E</sub>) S. Anderson, *Winesburg, Ohio* (南雲堂) ¥ 160

講師 島村東太郎

[Eクラス]

(R<sub>I</sub>) Bernard Shaw, *Shaw's Guide to Socialism* (成美堂) ¥ 250

講師 島村東太郎

(R<sub>E</sub>) Max Lerner, *America as a Civilization*, Vol II. (Simon & Schuster) ¥ 1,000

講師 菅原光穂

[Fクラス]

(R<sub>I</sub>) Ruth Benedict, *Patterns of Culture*, (松柏社) ¥ 170

講師 菅原光穂

(RE) Iris Murdoch, *The Italian Girl*, (英宝社) ¥ 350  
助教授 永原和夫

### 英語 (III)

[Aクラス]  
Danielson & Hayden, *Reading in English for students of English as a second language*, Vol. I. (文理書院) ¥ 360

教授 脇田 勇

[Bクラス]  
James Kirkup, *Japan, Now* (英潮社) ¥ 150

助教授 武本昌三

[Cクラス]  
Joseph Conrad, *Heart of Darkness* (研究社) ¥ 260

助教授 永原和夫

[Dクラス]  
Bernard Shaw, *Pygmalion* (大学堂) ¥ 420

講師 島村 東太郎

[Eクラス]  
T. Womach, 三浦新市共著「現代英文の構成と語法」(研究社) ¥ 280  
上記のほか、英作文補助教材(プリント)と録音教材を使用する。

非常勤講師 北村正司  
(小樽商大短大教授)

[Fクラス]  
福田・狩田編 *American Poetry: An Anthology*, (金星堂) ¥ 900  
*Six Stories by Edgar Allan Poe*, (洋販) ¥ 150  
*Selections from Washington Irving*, (洋販) ¥ 150  
*Speak Englishs*, Vol. III. (明隣堂) ¥ 300

外国人教師 マーク・ランダ

[Gクラス] (小人数グループ)  
Danielson & Hayden, *Reading in English for students of English as a second language*, Vol I. (文理書院) ¥ 360

外国人教師 マーク・ランダ

### ドイツ語 I・II

講師 小野光代

ドイツ語 I, II の A, B 各クラスとも週一回(火曜日)の授業は、同一時間を、口頭ドリルの50分と、文法、講読の50分とに分けて行い、前者を外国人講師が担当する。テキストは I, II 共通であるが、使用法と進度において異なってくる。

テキスト ①独語 I, II (A, Bクラスとも) ——火曜日使用——

小栗・フリートマン・シューマー・滝沢編 *Einführung in die deutsche Sprache* 朝日出版社

②独語 I (Aクラス) ——木曜日使用——

千石・シュタインベルク編 *Deutsche Gegenwart* 朝日出版社

### ドイツ語 I・II

外国人講師 D・シューマー

テキスト: 小栗・フリートマン・シューマー・滝沢編

*Einführung in die deutsche Sprache* 朝日出版社

### ドイツ語 I・II

非常勤講師 金田 諦元  
(北海道大学文学部講師)

テキスト ①独語 I・Bクラス ——木曜日使用——

国松・神品編 正修ドイツ語読本 同学社

②独語 II・Bクラス ——木曜日使用——

H・ベル ベル小品集

## フランス語 I

助教授 目黒士門

主として文法を行なう。

用書 京都大学フランス語教室編「初等フランス語教本——文法編」(白水社)

参考書 目黒他共著「新フランス広文典」(白水社)

辞書 1. 田島清・井上源次郎共編「新仏和中辞典」(白水社)  
2. 鈴木信太郎他共編「スタンダード仏和辞典」(大修館書店)  
上記2種の辞典のうちどちらか1部を必ず購入すること。

## フランス語 I

非常勤講師 中山毅  
(北海道大学文学部講師)

主として講読を行なう。

用書 窪川英水編「初歩フランス語読本」(煉金社)

## フランス語 II

助教授 目黒士門

[A組] 受講者は昭和43年入学者でフランス語 I (4単位) を履修したものに限る。まず昨年度のつづきを行なう。

用書 目黒・工藤編「初等フランス語教科書」(白水社)

小泉清明編・モーパッサン「シモンのパパ」(煉金社)

上記終わり次第、次の用書によってフランス語の読解力と表現力の涵養を計る。

用書 丸山圭三郎編「やさしい中級フランス語」第三書房)

[B組] 受講者は昭和42年以前の入学者でフランス語 I (4単位) を履修したものを原則とする。

「パスカル研究」というテーマのもとに『パンセ』を読みながらパスカルの思想と人格に触れたいと思う。

用書 野田又夫著「パスカル」(岩波新書)

平岡昇編・パスカル「パンセ抄」(白水社)

## フランス語 II

非常勤講師 中山毅  
(北海道大学文学部講師)

[A組] 受講者は昭和43年入学者でフランス語 I (4単位) を履修したものに限る。

用書 滝沢隆幸・堀田郷弘・三宅徳嘉編・A. MAUROIS: L'art d'aimer (文林書院)

[B組] 受講者は昭和42年以前の入学者でフランス語 I (4単位) を履修したものを原則とする。

用書 長塚隆二・室井庸一編・Y. IGOT: Monsieur et Madame Curie (朝日出版社)

## 中国語 I

教授 川上久寿

新しい中国語会話

北京語言学院編、香坂順一改編、光生館

## 中国語 II

教授 川上久寿

月牙ル

老舍著、香坂順一注釈、光生館

## 露語 I

教授 松本忠司

テキスト

入門ロシヤ語文法(白水社)

基礎ロシヤ語読本(白水社)後期使用

辞書

岩波露和辞典

コンサイス和露辞典あるいは研究社和露辞典

## 露語 II

教授 松本忠司

前期には訳読に、後期には作文に重点をおく。

テキスト

ロシア作家書簡集 (プリント)

ゴーリキイ「ヴェ・イ・レーニン」(プリント)

その他

### 3. 保健体育科目

体育実技 I・II

助教授	杉山	登
助教授	藤江	正
非常勤講師 (小樽商業高等学校教諭)	中川	平悟

#### 1 必須実技種目

(1) 水泳 内容としては、クロール、平泳、背泳、バタフライ、横泳、潜行、逆飛び込み、立泳、救助法等について実習する。指導段階において、初級、中級、上級の三段階に分け、初級では一泳法で25mを、中級では三種目以上の泳法を習得し、一泳法で50mを、上級では履修すべき全種目の修得と一泳法で100m以上泳げる泳力をつけることを目標としたい。この実習を通して指導法、管理法に関する知的な面の修得をもちかかってゆきたい。

実施時期については6月～7月にかけて一年次で4週間(8時間)二年次で3週間(6時間)実施するが、詳しい日時に関しては掲示により前もって通知する。

(2) スキー 内容としては、直滑降、斜滑降系技術、プルーク系技術、シュテム・クリスチャニア、パラレル・クリスチャニア、ウェデルン等について実習する。指導段階においては、初級、中級、上級の三段階に分け初級では一年次でプルーク・ボゲン、二年次でシュテム・クリスチャニア、中級では一年次においてはシュテム・クリスチャニア、二年次ではパラレル・クリスチャニア、上級では一年次でウェデルン、二年次でポール技術、深雪の技術の修得を目標としている。

実施時期については、1月～2月にかけて一年次で4週間(8時間)二年次で3週間(6時間)実施する。

(3) 体力, 運動能力測定

反復横とび, 50m走(敏捷性), 垂直び, 走り巾とび(瞬発力) 背筋力, 握力(筋力), 踏み台昇降運動, 1500m走(全身持久性), 伏臥上体そらし, 立位体前屈(柔軟性)の測定のほかに, 若干の測定種目を加えて5月と11月に各々1回実施する。これにより自己の体力・運動能力を把握し, それに応じた自己の体力増進方法を考え, 実践するようつとめさせてゆきたい。

2 選択実技種目

バスケット・ボール, バレー・ボール, 羽球, 卓球, ソフト・ボール, 軟式野球の6種目であるが, 4月~6月, 9月~12月の2期間において, 各期間毎に異った種目を一種目自由選択し履習するものとする。なお人員等の関係から選択種目の変更をさせることもありうる。また, 雨天の場合は, 体育館内で実施可能な種目に限定される。すなわち, バレー・ボール, バスケット・ボール, 羽球卓球の中より選択することになる。

体育講義

前期・前半 助教授 藤 江 正

体育講義

前期・後半  
非常勤講師 八 田 政 美  
(小樽協会病院内科医長)

1) わが国における人口, 出生, 死亡の現状とその問題

2) 主なる疾病

A 結 核

- 1) 感染と発病
- 2) 結核の種類
- 3) 病理と症状ならびに治療

B 性 病

- 1) 性病の種類
- 2) 性病の原因, 予防治療

C 高血圧症

- 1) 原因
- 2) 血圧
- 3) 予防と治療
- 4) 社会的意義

D 癌

- 1) 原因
- 2) 予防と治療

E 寄生虫症

3) 精神衛生

- |            |              |
|------------|--------------|
| 1) 精神障害の原因 | 2) 精神障害      |
| 3) 精神神経症   | 4) 精神病質      |
| 5) 精神薄弱    | 6) 精神衛生とその対策 |

4) 予防衛生

- 1) 近代社会と疫病予防
- 2) 伝染病成立の要因
- 3) 伝染病の予防



## 4. 基礎教育科目

### 商学概論

前期 教授 伊藤 森右衛門

- 第一章 序「商」の概念規定一
- 第二章 商企業の形態的發展
- 第三章 商業資本と商業利潤

註 参考文献はその都度指示する。

### 商学概論

後期 教授 石河 英夫

後期においては、商学の一部門である「会计学総論」として講義を行なう予定で、その内容は、簿記、原価計算、会计学、監査論など会计学に関する諸学科へのイントロダクションを目標としている。

1. 総 説
2. 資本主義の發展と会計諸学科
3. 商業資本主義と複式簿記の生成・發展
4. 産業資本主義と原価計算の發達
5. 簿記より会計への展開
6. 会計監査の發達
7. 近代的会計制度

#### 参 考 方 献

リトルトン、片野一郎訳、会計發達史、同文館 木村和三郎・小島男  
佐夫共著、簿記学入門、森山書店 番場嘉一郎著、原価計算の手びき、  
日経文庫、江村稔著、新企業会計入門、森山書店

### 管理科学概論

教授 古瀬 大六

1. 情報革命
2. 電子計算機と情報処理
3. オペレーションズ・リサーチ

### 4. システム設計

### 5. 人間と組織

[テキスト]

三井操「やさしいコンピューター」(現代教養文庫) 社会思想社 3/200

## 数 学

教授 武隈 良一

微分積分学の講義を行なう。

教科書 栗田稔著基礎教養微分積分学、学術図書出版社 490円

## 経済学概論

前期 助教授 早見 弘

後期 教授 藤井 栄一

下記のテキストを使用して、経済理論の基礎的な分析方法を講義する。前期は、本書第1・2部の国民所得分析を、後期は第3・4部の価格分析をとり扱う。受講者は、英語版または日本語訳のいずれかを購入すること。

Paul A. Samuelson, *Economics: An Introductory Analysis*

(Kōgakusha, International Student Edition, 7th ed., 1967).

サムエルソン、都留重人訳『経済学』上・下(岩波書店、原書第7版、1968).

## 5. 専門教育科目

### 統計学

教授 竹内 清

#### 1. 講義内容

統計学の歴史をまず概観した上で、記述統計学および推測統計学の基本を通し、経済学をはじめとする社会科学の諸問題への応用力を高めることを主眼とする。

今年度は、記述統計学において回帰分析にかなりの重点をおくが、できるだけ推測統計学の分野に時間をかけることにする。確率論、統計的推定論、統計的仮説検定論、統計的決定理論、実験計画法、品質管理、標本調査の基本は一応講述する予定である。

なお、最後に時系列分析の問題を考察する。

参考文献は適宜紹介する予定であるが、教室内での小さな試験の如きものも随時適当に行なうことにする（43年度は5回実施）。

#### 2. 使用テキスト

森田優三編「現代経済学演習講座・統計学」青林書院新社。昭和40年

### 経済原論

教授 藤井 栄一

#### 講義内容

- I 価値論（需要・供給・均衡・安定条件・対応原理）
- II 分配論（要素価格の理論・マーシャルのルール）
- III 貨幣論（国民所得・利子率・物価水準・景気変動）
- IV 経済成長（新古典派定理・バランストグロース・ターンパイク定理・ケインズ派成長理論）
- V 経済と政治（厚生経済学）

#### 参考書

スティグラール『価格の理論』  
ドーフマン他『線型計画と経済分析』  
ゲール『線型経済学』

サムエルソン『経済分析の基礎』

ヒックス『価値と資本』

ヒックス『賃金の理論』

マーシャル『経済学原理』

ケインズ『一般理論』

アクリー『マクロ経済学』

Patinkin, *Money, Interest, and Prices*

Vanek, *Maximal Economic Growth*

Little, *Critique of Welfare Economics*

A.E.A., *Readings in Price Theory*

A.E.A., *Readings in the Theory of Income Distribution*

A.E.A., *Readings in the Monetary Theory*

（入門書：Lipsey, *Positive Economics*）

Friedman, *Price Theory*

昨年度はIからIIIまでしかカバーできなかったが、本年度はVまで進みたいと思います。なお、I～IIIの内容は昨年とほぼ同一ですが、やや程度の高い分析について、のべる予定です。したがって、上記の参考書のうちの、かなりのものについて、各自が適当な時に、十分にていねいに読んでおくことが絶対に必要不可欠です。

### 経済変動論

助教授 増井 幸夫

#### 講義内容

- I 経済変動のクロノロジー
- II 循環的成長の理論的考察
- III 景気予測
- IV 景気政策

#### 主なる参考文献

西川元彦『景気の見方』日本経済新聞社  
篠原三代平他編『成長と循環』近代経済学講座 基礎理論篇 4  
有斐閣 藤野正三郎『日本の景気変動』勁草書房

熊谷尚夫『近代経済学』日本評論社 5, 6章

森島通夫『資本主義経済の変動理論』創文社

AEA Series, Readings in Business Cycle Theory, Richard D. Irwin Inc.

J.A. Schumpeter, Business Cycle: A Theoretical, Historical, and Statistical Analysis of the Capitalist Process, 2 vols, Macgraw-Hill,

〔吉田昇三監修・金融経済研究所訳『景気循環論』I~V, 有斐閣〕杉本栄一編『恐慌』経済学新大系II河出書房 4章

### 経済学特殊問題 非常勤講師 北海道大学経済学部助教授 降旗節雄

資本主義社会を理論的に解明する方法は、原理論、段階論、現状分析の三段階の過程をとおさざるをえない理由を明らかにし、原理論を中心として、その具体的内容を説明する。(以上の参考文献は『資本論』(その前提として社会科学方法論を考察し、最後に補論として帝国主義論、現代資本主義論についてもふれる。(以上の参考文献はM・ウェーバー『社会科学方法論』, エンゲルス『フォイエルバッハ論』, ヒルファードィング『金融資本論』, レーニン『帝国主義論』)

教科書はとくに使わないが、講義の基本部分は『資本論』の内容にそってすすめられるので、宇野弘蔵編『資本論研究』(全五巻筑摩書房)あるいは降旗『資本論体系の研究』(青木書店)を参照しながら受講の方が望ましい。尚参考文献としてあげた著作はいずれも数種の邦訳があるが、どれを用いてもたいした違いはない。

### 計量経済学

助教授 松田芳郎

講義は次の内容を中心とする。

I <実証的>経済学について——計量経済学形成史

II 経済模型の設計 (Model building)

### III 経済模型の定式化 (Specification)

#### IV 線型模型の特性

- 1) 回帰分析の復習
- 2) 不等分散性について
- 3) 多重共線型関係
- 4) 相互依存の体系の統一的理解

#### V 経済予測と simulation

#### VI 経済分析の方法論再論。

中心となる問題は相互依存体系の問題であるので、行列・行列式の初歩的演算について知ることが望ましいので、応用数学を履習すること。産業連関表・線型計画法については触れる余裕がないと思われるので、管理科学の当該科目を聴講されたい。

計量経済学はひとつの技術の体系である、従って論理展開のひとつひとつ追うことを体得する様にわたくしと一緒に考えてほしい。

必要な文献をみつけ出すことがひとつの技術であり、文献目録類の使用法については講義でもふれる。その際、詳細な文献目録は配布の予定であるが、とりあえず下記の文献をすすめておく。配列は初歩的なものを先にあげてある。

[1] Beach: *Economic Model*

[2] Klein: *Introduction to Econometrics*

(これは *Textbook of Econometrics* と違って、経済の実証分析で起る具体的な問題を中心に書いてあり、類書の少ないものである)

[3] Malinvaud: *Statistical Method of Econometrics*

[4] Fraser: *Structure of Inference.*

(これは統計理論の本であり、かならずしも計量経済学に限定されるものでない)

Iのための参考文献として次のものをすすめておく。

[5] Hughes: *Consciousness and Society, the reconstructing of European social thought, 1890-1930.*

(実証的経済理論が発生してくる社会的背景を知るのに参考となる)

[1], [2], [5]については邦訳があるが、[2]についてはリプリ

ントの廉価版があるから、なるべく原本を参照することが望ましい。

文献検索については本講義だけでなく、社会科学全般に渡るものがあるが、次のものを参照されたい。

〔6〕伊大知・水田・藤川（共編）『社会科学ドキュメンテーション』

## 経済史概論

助教授 井 上 巽

比較経済史的観点から、戦後わが国における経済史学の現論的成果を論述する。

- I 課題と方法
- II 経済発展段階諸説
- III 封建制から資本主義への移行に関する基礎理論
- IV 市民革命の諸類型
- V 産業革命と資本主義の確立
- VI 展望—「世界資本主義」に関する諸問題

テキストは特に使用しない。参考文献はそのつど指示するが、さしあたり大塚・高橋・松田編『西洋経済史講座』（岩波書店）I～IVをあげておく。

## 日本経済史

教授 安孫子 麟

この講義は、日本近代社会成立の歴史的・類型的特点を考察することを目標とする。このため、経済史概論および経済学特殊問題などの講義を理解していることを前提として行なう。

日本近代を理解するための手がかりとしては、前資本主義社会の基礎的構成としての「共同体」と、その特殊歴史的段階としての近世封建制の解明を考える。そこから、日本資本主義社会への断絶と連続性を把握するが、これは「共同体」の止揚・変質の歴史的吟味となろう。以上のしめくりとして、日本資本主義再生産構造の特殊的類型を明らかにしたい。

講義は、ほぼつぎの構成によって行なう。

- I 近世封建社会構造論
- II 移行変革論（1）—封建的危機論

III 移行変革論（2）—明治維新論

IV 資本主義社会構造論

教科書としては、とくに指定しないが、I、Vの構造論の参考文献としては、中村吉治編「日本経済史」（山川出版社680円）、中村吉治編「社会史」II（山川出版社750円）を挙げておく。II、IIIの移行変革論の参考文献は数多くあるが、さしあたり、大石・津田・逆井・山本著「日本経済史論」（御茶の水書房900円）、「岩波講座日本歴史」近世4、5近代1、2（岩波書店各450円）を挙げる。なお、必要に応じ別に文献を示す。

## 経済政策

助教授 望 月 喜 市

経済学は、最初からすぐれて政策的意図をもって構築されてきた。たとえば、アダム・スミスは『国富論』の中で、資本主義的市民の富を増大するためには、絶対主義国家が商人階級保護の目的で実施する重商主義政策が妨げになり、労働の生産性を上げる分業を展開せしめ、個人を自由に活動せしめる自由主義政策の必要をといた。デビット・リカードは、通貨問題、穀物条例改正問題に関して自己の政策を主張し、『経済学及び課税の原理に就いて』を刊行して、古典派経済学の確立に貢献した。弁証法のおよび史的唯物論の立場にたって資本制的生産様式の発展および没落の法則を研究し、マルクス主義経済学を樹立したカールマルクスは、労働者階級を資本のくびきから解放するという実践的問題意識を強く持っていた。第一次大戦後の世界資本主義の変貌とその苦悩に直面して、ジョン・メーナード・ケインズは経済政策における「自由放任」の時期は終わったと宣言し、今日の完全雇用政策の基礎的原理を『雇用・利子及び貨幣の一般理論』の中で展開した。このように、すぐれた経済学説の中には強烈な問題意識と政策的提言が含まれている。経済学は経済的諸現象に働きかけ、これを制御しようという政策的体質を強くもっている。

今日、われわれの住む高度工業社会では、各種の経済全体の利害が複雑に錯綜し、夫々の要求を掲げて自らの主張を展開している。この中で、独占資本の利益擁護に強い傾斜をもつ国家が、経済政策の主たる担い手となっている。高度成長、物価安定、所得再分配、産業構造の高度化、農業近代化、

貿易と資本の自由化,都市公害など,われわれの日常見聞する経済事象は,その多くが何らかの政策提案と関連している。われわれは,経済学を専門に学ぶものとして,こうした議論を主体的に受けとめ,学問的思考を国民全体のものとしていかねばならない。本年度の講義は次の三つの分野について述べる。

- 1 経済政策の方法論と経済政策論の主な潮流
  - A 理論と政策との関連,経済体制と経済政策,経済政策の主体
  - B 政策論の潮流→政策論の発展福祉国家論,ケインズ派の政策,マルクス派の政策,計画経済の考え方
- 2 日本における経済政策の展開  
成長政策,安定政策,構造政策を実証的に展開する。
- 3 社会主義諸国の計画経済と,経済政策における体制比較論今日の世界経済で,社会主義経済の重みを見落とすことができない。生産手段が国有化されている社会体制のもとでの経済政策の特徴を資本主義のそれと対比して考察したい。

参考文献については,最近の経済政策に関するテキスト類に掲載されているものを参照されたい。その外各テーマ別に参考文献を必要に応じて指示する。

## 農業経済学

非常勤講師 崎浦誠治  
(北海道大学農学部教授)

- 第1章 経済発展と農業
  - 第2章 わが国農業の展開過程
  - 第3章 小農経営
  - 第4章 農業人口
  - 第5章 農地問題
  - 第6章 農業金融
  - 第7章 農産物需給と農産物価格
  - 第8章 日本農業と外国農業
  - 第9章 農業の発展方向
- 参考文献

井上龍夫, 農業問題の経済学 大明堂

大川一司, 農業の動態分析 如水書房  
矢島武・崎浦誠治共編 農業経済学大要 養賢堂

## 社会政策

教授 吉武清彦

- 第一篇 社会政策史
- 第二篇 社会政策本質論
- 第三篇 社会政策各論
- 参考書 大河内一男 社会政策 (総論及び各論) 有斐閣  
岸本英太郎 社会政策 (ミネルバ書房) 昭40年  
隅谷三喜男 労働経済論 (日本評論社, 昭40年)

## 財政学

助教授 早見弘

今年度は以下の編成によって講義する予定である。説明に必要なグラフなどは,プリントして配布する。

- I 財政支出の分析
  - (1) 経費膨張の法則
  - (2) 財政支出のタイム・パターン
- II 政府活動の理論的基礎
  - (1) 外部効果と政府活動
  - (2) 所得再分配
  - (3) 経済安定
  - (4) 経済成長
- III 租税構造の変遷
  - (1) 明治・大正・昭和の租税収入
  - (2) 地租改正
  - (3) 所得税の創設と発展
  - (4) シェアアップ勧告
- IV 租税原則と租税制度
  - (1) スミスの租税原則

- (2) ワーグナーの租税原則
- (3) 犠牲説
- (4) 社会価値説
- (5) 租税関数論
- (6) 所得再分配効果

#### V 財政政策論

- (1) 財政収支の乗数分析
- (2) ビルトイン・スタビライザー
- (3) 国債管理政策

#### 参考文献

- 大川・宇田川編『財政学講義』（青林書院）
- 井藤半弥『財政学総論』（千倉書房）
- 藤田晴『財政政策の理論』（剋草書房）
- その他

### 国際経済論

教授 麻田 四郎

下記の書物を教科書として使用する。

- G.M.マイヤー（麻田・山宮訳）『国際貿易と経済発展』  
（ダイヤモンド社）

### ※国際金融論

非常勤講師 足立 禎  
（東京銀行調査部）

### 金融経済論

助教授 漆崎 健治

本年度は経済理論の貨幣的側面を、主として学説史的に論じ、貨幣経済の把握方法および経済に対する貨幣的要因の諸作用を明らかにしたい。

- I 序論
- II 金融の形態とその発展—貨幣、本源的証券および間接証券—
- III 信用創造論

- IV 古典学派及び新古典学派の貨幣経済理論
- V ケインズ「一般理論」の貨幣的側面
- VI 物価および利子の理論
- VII 経済変動と貨幣的要因
- VIII 新しい金融理論と金融政策の有効性

#### 参考文献

- J.M.ケインズ（塩野谷九十九訳）雇用利子および貨幣の一般理論  
東洋経済新報社
- H.G.ジョンソン（村上敦訳）貨幣、貿易、経済成長、ダイヤモンド社
- J.G.ガーレイ、E.S.ショウ（桜井欣一郎訳）貨幣と金融 至誠堂
- 川口弘 金融論 筑摩書房
- 川口弘・川合一郎編 金融論講座 第二巻 現代の金融理論 有斐閣

### 銀行論

助教授 漆崎 健治

- I イギリスおよびアメリカ合衆国における銀行業の発展史
- II 預金銀行とその業務
- III 銀行の本質と機能
- IV 銀行流動性理論
- V わが国の金融制度
- VI 銀行準備とその規制

#### 参考文献

- R.S.セイヤーズ（三宅義夫訳）現代銀行論 東洋経済新報社
- A.G.ハート、P.ケネン（吉野昌甫・山下邦男訳）  
現代金融論 日本評論社
- 樋口午郎 銀行理論 東洋経済新報社
- 川口慎二 銀行流動性論 千倉書房

マーケティング (小樽商科大学短期大学部講師) 非常勤講師 片桐誠士

- 序 マーケティング論の課題, 対象と方法
- I マーケティングの成立過程と商業
- 1 資本制商品流通と商業資本の本質
  - 2 商業資本自立化の根拠
  - 3 独占の成立と商品流通の変質
  - 4 商業資本の排除と社会的流通費用
- II マーケティングの発生と展開
- 1 マーケティングの成立—成立期—
  - 2 マーケティングの展開—展開期—
  - 3 マネジリアル・マーケティングの成立と展開
- III 現代マーケティングの基礎概念
- 1 マーケティング基礎概念の形成過程
  - 2 マーケティングへの機能主義的接近
  - 3 組織された行動システム
  - 4 分類取り揃え
  - 5 マーケティング・システム
  - 6 現代マーケティング理論における基本的接近

IV 現代マーケティングの体系と技法

参考書

荒川祐吉・森下二次也編著

体系マーケティング・マネジメント 千倉書房

荒川祐吉他共著

マーケティング経営論 (新経営学全集4) 日本経営出版会

清水晶編 マーケティング (新経営学全集) 青林書院新社

片岡一郎他共著 現代マーケティング総論 同文館

商業英語

非常勤講師 木曾栄作  
(小樽女子短大教授)

外国貿易の実務的背景知識を与えつつ, 貿易取引に用いられる専門術語, 語彙及び英語通信文の構造の特異性を分析し, 下記の内容を中心として表現応用能力の涵養を目的とする。

1. 英文商業書簡の構成と形式
2. 取引関係の創設
3. 引合から受注まで
4. 契約の履行
5. クレームとその調整
6. 国際電報

テキスト 石田・桜庭・山本共著標準貿易英語 (第三出版)

保険論

講師 田村祐一郎

- I 保険の技術的構造
- II 経済保障の体系
- III 保険史
- IV 保険経営

参考文献

白杉三郎「保険学総論 (再訂版)」昭和30年 千倉書房

佐波宣平「保険学講案」昭和33年 有斐閣

大林良一「保険理論」昭和35年 春秋社

印南博吉外「保険経営論」昭和36年 東洋経済新報社

水島一也「近代保険論」昭和36年 千倉書房

証券市場論

助教授 石原定和

戦前における証券市場論は, 一言でいえば証券取引所論であり, 商業学の一部門として, 商品・証券の両取引所を含めて体系づけられていた。これは, 戦前の財閥が封鎖的な資金の調達方法を用いたため, 公開された証券市場では企業の資金調達という機能よりも, むしろ投機取引という商品売買に

共通した面だけが利用されていた事実の反映である。

戦後になると、財閥企業も長年の蓄積を失って再出発が必要となったし、財閥解体によって、株式市場は企業の資金調達という本来の機能を果たすようになった。

このような事情を反映して、証券市場論も取引所の中だけでなく、一方では企業の資金調達面や他方では金融市場との広い関連のなかで取扱われねばならなくなってきた。

以上のような問題意識を基礎に据えて、証券市場論の講義の内容（あるいは体系）を考えるとすれば、さしずめつぎのような構成となるであろう。

#### 序 証券市場論の対象

- 1 株式会社における証券の役割  
—資本集中と支配技術の進展と関連させて—
- 2 資本証券の本質とその運動  
—擬制資本範疇の成立とその自己運動—
- 3 資本証券の流通と金融市場
- 4 わが国における証券市場発展の歴史と資本蓄積に果たした役割

#### 《参考文献》

- 1 『証券経済講座』（東洋経済）全5巻
- 2 『日本証券市場の構造分析』（有斐閣）
- 3 川合一郎編『証券市場論』（有斐閣双書）
- 4 馬場克三『株式会社金融論』（森山書店）
- 5 別府正十郎『資本会計の経済理論』（森山書店）

### 証券金融論

助教授 鈴木 満 直

証券金融を証券の金融的側面として理解し、前半に証券の商業学的側面、すなわち制度を日本の現状に則して解説し、後半に経済学的側面、とくにケインズおよびケインズ以後の貨幣理論に力点をおいて講義する。

テキストは特に使わない。

#### 参 考 書

木村増三 証券市場概論 春秋社

小泉明 マネー・フロー 至誠堂

その他 ケインズ一般理論の解説書

### 有価証券論

助教授 石 原 定 和

—商業手形、小切手、公社債、株式の発展と信用制度—

金融資本段階といわれる資本主義の最高の発展段階において、複雑な信用関係は、そのもっとも目につく表面においては、多種多様な有価証券の集積・運動としてあらわれている。しかし、有価証券といっても決して単一のものではない。

有価証券という言葉をもっとも広義に解して、何らかの価値請求権を代表する証券であるとするならば、その中には単なる借用証書、商品券からはじまって、船荷証券、倉庫証券、貨物引換証、手形、銀行券、小切手、国債、社債、株券等すべてが含まれるはずである。しかし、単なる借用証書や商品券は通常用語法では有価証券であるとはされていない。

また、船荷証券、貨物引換証、倉庫証券は売買にあたって商品そのものの代りに使われ、手形、銀行券、小切手は貨幣の代りとして商品を購入し、支払う手段として使われ、公社債、株券はいわゆる資本証券、利潤（配当）証券として使われている。なお、銀行券はふつう有価証券といわれたいのは、価値の請求権という域を越えて貨幣それ自体とみなされるにいたったからである。

しかも、これら有価証券と総称されるものは、「流通」することを特色とする。流通の内容を考えると、それは請求権の移転であるから、つまりは請求権関係の拡大、展開ということになる。かくて有価証券とはたんなる請求権や信用関係の存在一般ではなく、その「社会化」を証券の運動の形で表現するものであることがわかる。

以上のように考えてゆくなれば、有価証券論の内容（体系）は、信用制度の発展につれて、信用諸用具がいかんして発生してくるかという信用理論（信用貨幣も含めて）の検討から始められねばならないであろう。今年の講義のアウトライン（予定）を示せば次のごとし。

序 有価証券の概念規定とその区分



- 1 信用—貸借取引と利子生み資本
- 2 信用および信用体系 ——手形, 小切手生成の論理——
- 3 資本制生産における信用の役割 ——資本信用と有価証券——

## 経営学総論

教授 伊藤森右衛門

- 第一章 序 ——経営学の体系と発展——
- 第二章 企業形態の歴史的展開
- 第三章 現代企業と指導原理
- 第四章 経営職能と組織構造
- 第五章 経営政策とイノベーション

### 参考文献

- 山城章著「経営学原理」白桃書房  
 占部都美著「近代管理学の展開」日本経営出版会  
 同 「現代の企業行動」  
 拙著 「経営者リーダーシップ論」評論社  
 同 「トップ・マネジメント・リーダーシップ論」税務経理協会  
 同 「経営リーダーシップ論」丸善（本秋刊行予定）

## ※企業形態論

非常勤講師 儀我壮一郎  
 （大阪市立大学商学部教授）

## 労務管理

助教授 篠崎恒夫

本講義は昨年度まで「工場経営」で論じた内容を「労務管理」と「生産管理」に分離したものである。主内容は工業経営における経営労務に関して展開される。経営労務研究の領域はさらに労資関係論と労務管理論に大別される。以下の講義内容はそうした考えに沿ったものとして理解されたい。

- 1 経営労務論の課題と体系  
——「労務管理」の方法——
- 2 労使関係の展開

- 3 労働力管理
- 4 賃金管理
- 5 人間関係
- 6 経営参加制度
- 7 日本の労務管理

### 参考書（主なもの）

- 古林喜楽著「経営労働論序説」ミネルヴァ書房  
 醍醐作三著「労務管理論序説」泉文堂  
 木元進一郎著「人事管理の基本問題」泉文堂  
 藻利重隆著「労務管理の経営学」千倉書房  
 古林喜楽著「賃金形態論」森山書店  
 高橋他編「賃金の理論（講座現代賃金論1）」青木書店  
 日本経営学会編「労務管理と経営学」ダイヤモンド社

## ※財務管理

非常勤講師 森昭夫  
 （神戸大学経営学部教授）

## 簿記学 Aクラス

助教授 河野二男

- (1) クラスの編成  
Aクラス 68001～68150および67001～67150で単位未修得者。
- (2) 教授内容  
全般にわたって会計理論の構造を背景として説明し、3年次の会計学への橋渡しをすることに主眼をおく。

### 目次

- 第1章 簿記の意義とその種類  
 1 簿記の意義 2 簿記の目的と経営活動 3 簿記の歴史 4 簿記の主体としての企業体 5 簿記と会計
- 第2章 資本・負債・資産および費用・収益  
 1 資本・負債および資産 2 費用と資産との区別 3 収益・利益と資本・負債との区別 4 負債と資本との類似性とその区別 5 勘定科目・勘定口座
- 第3章 複式簿記の記帳法則

- 1 貸借の理法と記帳上の諸法則 2 勘定式計算 3 仕訳 4 価値計算・貨幣的金額計算 5 自動的検算 6 試算表
- 第4章 正規の簿記の原則と財務諸表の作成  
1 正規の簿記の原則と財務諸表の作成 2 正規の簿記の原則による貸借対照表の作成 3 正規の簿記の原則による損益計算書の作成 4 財務諸表とその体系
- 第5章 取引とその記録の帳簿  
1 取引の意義 2 取引の種類 3 主要簿 4 補助簿 5 伝票 6 伝票の記帳
- 第6章 仕訳帳および仕訳伝票の記入  
1 仕訳帳の記入 2 伝票による仕訳記入法 3 伝票の綴込と集計表の作成
- 第7章 元帳への転記と補助簿の記入  
1 総勘定元帳と分化元帳 2 元帳への転記の例示 3 元帳への転記の要領 4 補助簿の記録
- 第8章 試算表と精算表  
1 試算表の作成とその目的 2 試算表の種類 3 試算表による誤謬発見法 4 精算表
- 第9章 勘定科目の分類  
1 勘定科目の分類 2 勘定科目の設定 3 勘定科目一覧表とその整理 4 特殊の勘定科目
- 第10章 資産変化の取引と資産の勘定  
1 企業資産と企業外資産 2 資産変化の取引 3 流動資産に属する勘定 4 固定資産に属する勘定 5 繰延勘定に属する勘定
- 第11章 負債変化の取引と負債勘定  
1 負債変化の取引 2 流動負債に属する科目 3 固定負債に属する科目 4 偶発債務
- 第12章 資本変化の取引と資本の勘定  
1 資本変化の取引 2 資本金に属する科目 3 資本剰余金に属する科目 4 利益剰余金に属する科目

- 第13章 費用、損失の発生取引と費用、損失の勘定  
1 費用および損失の発生とその記録  
2 費用および損失に属する科目
- 第14章 収益、利益の発生取引と収益、利益の勘定  
1 収益および利益に属する勘定 2 特殊販売取引とその勘定  
3 贈与利益その他の勘定
- 第15章 決算の手続  
1 決算の意義 2 財産調査による決算 3 簿記記録による決算  
4 期間損益の計算と費用収益の対応および配分 5 大陸式決算法と英米式決算法 6 月次決算と年次決算
- 第16章 収益の確定計算  
1 収益計上の基準 2 収益の控除および繰延 3 収益の見越計上
- 第17章 費用の確定計算  
1 費用計上の基準 2 棚卸の方法による費用の配分 3 時の経過による費用の配分 ——減価償却および償却—— 4 費用の見越計上 5 費用および損失の繰延
- 第18章 資本の確定計算  
1 資本の確定と剰余金 2 資本剰余金と確定計算 3 資本剰余金の項目とその会計処理 4 利益剰余金の確定計算 5 利益剰余金の項目とその会計処理
- 第19章 記録の結果の再集合と利益の確定——帳簿の締切と財務諸表の作成  
1 元帳の締切 2 補助簿の締切 3 損益計算書および貸借対照表の作成 4 損益計算書と貸借対照表との関係 5 剰余金計算書の作成 6 精算表の作成
- 第20章 本支店取引とその計算  
1 本支店取引 2 本支店取引の決算整理
- 第21章 商的工業簿記  
1 商業簿記と工業簿記 2 商的工業簿記 3 製造原価報告書  
4 記帳例題

(3) 参考文献

- 阪本安一著 改訂簿記詳説 (国元書房)
- 片野一郎著 新稿簿記精説 (同文館)
- 井上達雄著 新版例解会計簿記精義 (白桃書房)
- 沼田嘉穂著 簿記教科書 (同文館)
- 宮坂保清著 新版簿記演習 (税務経理協会) 以上

簿記学 Bクラス

助教授 久野光朗

(1) クラスの編成

68151~68294, 67151~67294および昭和42年度以前の入学者で単位を  
取得していない者

(2) 授業内容

最初の授業時間に授業計画と学習方法を説明し、あわせて参考書の紹介などをいたしますが、授業内容は次のとおりです。

- § 1 総論
- § 2 貸借理論
- § 3 勘定理論
- § 4 帳簿組織論
- § 5 決算理論

(3) テキスト

目下検討中ですが、講義開始時までに決定します。

(4) 参考書——現在入手可能なものに限定

- 片野一郎, 「簿記の手ほどき」 (同文館)
- 片野一郎, 「新稿簿記精説」 (同文館)
- 井上達雄, 「例解会計簿記精義」 (白桃書房)
- 阪本安一, 「改訂簿記詳説」 (国元書房)
- 泉谷勝美, 「簿記学概論」 (森山書店)
- 山榊忠恕, 「複式簿記通論」 (中央経済社)
- 山榊・飯野・染谷共編, 「簿記原理」・「上級簿文」 (有斐閣)
- 戸田義郎, 「簿記」 (評論社)
- 黒沢清, 「改訂簿記原理」 (森山書店)

横浜市立大学会訂学研究室編, 「大学簿記演習」 (同文館)

沼田嘉穂, 「簿記教科書7訂版 (記帳練習帳を含む)」 (同文館)

(5) 備考

河野助教授のAクラスと併行講義であるが、テキストを統一し、授業の進行およびテストなどについても調整をはかるようにします。

原価計算

助教授 久野光朗

最初の授業時間に授業計画と学習方法を説明し、あわせて参考書の紹介などをいたしますが、講義の進め方は次のようにしたいと考えています。

- § 1 総論
- § 2 実際原価の計算
- § 3 標準原価の計算
- § 4 原価差額の処理

テキストはとくに指定しませんが、各自で必ず大蔵省企業会計審議会、「原価計算基準」を用意してください。

参考書——現在入手可能なものに限定

- 片野一郎, 「工業簿記の手ほどき」 (同文館)
- 青木茂男, 「原価計算新稿」 (中央経済社)
- 山辺六郎, 「最新原価計算精説」 (白桃書房)
- 番場嘉一郎, 「原価計算論」 (中央経済社)
- 諸井勝之助, 「原価計算講義」 (東京大学出版会)
- 松本雅男, 「原価計算詳解」 (春秋社)
- 溝口一雄, 「新版例解原価計算」 (中央経済社)
- 太田(その他4人監修), 「原価辞典」 (中央経済社)
- Blocker and Weltmer, *Cos Accounting* (McGraw-Hill・Kogakusha)

経営統計学

教授 武隈良一

商業学科と経済学科の学生のための講義なので、数学の面を強調すること

なく、主として応用について述べる。O. R. のなかから題材が選ばれるが、以下のものを講義する予定である。

1. 集合と記号論理
2. 線型計画法
3. ゲームの理論
4. 待ち行列の理論
5. 情報理論
6. モンテカルロ法
7. マルコフ過程
8. その他

教科書 依田浩著技術者のOR入門 朝倉書店 1.000円

## 会計学

教授 石河英夫

- I 会計学の概念
- II 企業会計の本質・職能
- III 会社理論の展開
- IV 企業会計の基礎的前提
- V 企業会計原則の成立・構造
- VI 企業会計の一般原則
- VII 損益計算書原則
- VIII 貸借対照表原則

(注) 商法ならびに法務省令「計算書類規則」との関連を考慮して述べる予定である。

## 監査論

教授 石河英夫

- 第1章 総説
- 第2章 監査の発達
- 第3章 財務諸表監査
- 第4章 監査人と監査制度

- 第5章 監査基準
- 第6章 監査証拠
- 第7章 監査手続
- 第8章 内部統制組織
- 第9章 監査の計画
- 第10章 監査調書
- 第11章 監査報告
- 第12章 貸借対照表の監査
- 第13章 損益計算書の監査

### 参考文献

田島四郎, 新会計監査提要 (同文館)  
近沢弘治, 現代会計監査 (中央経済社)  
久保田音二郎, 近代財務諸表監査 (同文館)

## 管理会計

助教授 河野二男

- 第1章 管理会計の本質  
(1)管理会計と財務会計 (2)管理会計と経営職能 (3)管理会計と体系化
- 第2章 管理会計の生成発展
- 第3章 管理会計論の展開  
(1)アメリカにおける管理会計論の発展  
(2)ドイツ管理会計論の系譜
- 第4章 管理会計と経営管理組織  
(1)インターナル・コントロール (2)コントローラー制度 (3)分権的利益管理 (4)責任会計としての事業部制会計
- 第5章 経営計画会計  
(1)経営計画会計の意義と特色 (2)経営計画の分類 (3)意思決定原価の諸概念 (4)長期利益計画 (5)短期利益計画予算編成 (6)プロジェクト・プランニングとピリオド・プランニング (7)設備投資計画と計算(8)製品計画会計 (9)価格政策と原価計算 (10)操業度計画と生産計画 (11)営業費計画と分析 (12)自製・購入選択の計画 (13)在庫計画と計算(14)要

員計画と付加価値計算 (15)資金計画の設定 (16)研究開発費会計

## 第6章 経営統制会計

(1)経営統制会計の意義と特色 (2)事前経営統制会計の問題点 (3)事後経営統制会計の問題点 (4)実際原価計算と製造原価管理 (5)標準原価計算と製造原価管理 (6)変動予算と営業費管理 (7)コスト・マネジメントとコスト・コントロール (8)資金管理と資本コスト計算 (9)利益管理の方法 (10)固定費の管理 (11)原価管理報告論 (12)管理会計と内部監査 (13)モチベーションと責任会計

## 第7章 管理会計の技法

(1)全部原価計算と直接原価計算 (2)標準原価計算と直接標準原価計算 (3)財務諸表分析と経営分析及び経営比較 (4)近代予算統制論 (5)ORと管理会計 (6)リニヤ・プログラミングと管理会計 (7)価値分析と管理会計

## 第8章 経営費用理論

(1)伝統的費用理論 (2)近代的費用理論 (3)利益計画と費用理論の展開 (4)原価管理と費用理論の展開 (5)損益算定の基礎と費用理論の展開

## 第9章 経営原価情報論

(1)経営情報手段としての原価計算 (2)計算モデル設定の基礎としての原価計算の理論 (3)費用理論的モデルと原価計算的モデルの比較 (4)原価情報の手段としての費用理論 (5)原価情報の正確性の判断

参考文献 増補・改訂管理会計の基礎 (河野二男著)

## 外国書講読

助教授 篠崎 恒夫

現代経営学の新展開領域と目される経営史の著書の中から一冊を選んで講読の対象とする。

グラスを始祖とするハーヴァード経営史学は、従来の経済学的な資本主義企業発達史に対して経営者史的分析手法を提起した。その流れはチャンドラーの名著「経営戦略と組織」に結実した。経営組織の発展に資するところの経営者の行動を捉え、そうした行動が機構である事業部制を構築し、又さらに新たな活動力を産み出していく図式がケース的に巧みに捉えられてい

る。本講義において用いるテキストはこうした経営者行動の基盤となる企業の発展を取上げたものであり、年代的に見てチャンドラーの前史とも云うべきものである。

一方、経営管理発展史にあっても、テイラーの科学的管理法の発生・伝播の様相は今日にあってもそれ程明らかであるとは云い難い。その原因の一つには、本テキストで取り上げる様な企業発展の実態が十分に解明されていないことが挙げられよう。本講義は、以上の様な問題点を踏まえつつ、読解力の涵養もさりながら、経営史的理解を主眼点において進める。

## TEXT

T. C. Cochran and W. Miller : The Age of Enterprise—  
a social history of industrial America —

## READINGS

N. S. B. Gras : Business and Capitalism (植村元覚訳『経営史』関書院)

J. Chamberlain : The Enterprising Americans — a business history of the United States (宇野博二訳『アメリカ産業を築いた人びと』至誠堂)

T. C. Cochran : The American Business System — a historical perspective (中川敬一郎訳『現代の経営組織——新しい経営の生成と発展』東京出版)

A. H. Cole : Business Enterprise in its Social Setting (中川敬一郎訳『経営と社会——企業者史学序説——』経営名著シリーズ, ダイヤモンド社)

井上忠勝著『アメリカ経営史』神戸大学経済経営研究所叢書栗田真造著『経営史』千倉書房

## 外国書講読

助教授 河野 二男

## 使用文献

H. H. Böhm ; Dynamische Kostensenkung im Betrieb

この文献は先に Wille と共に出版した「Deckungsbeitragsrechn-

ung und Optimierung」の中で主張・提案した直接原価計算の発展形態とみられる「補償貢献額計算」を基にした新しい側面からの「経営における動的原価引下げ」(動的原価管理論)をその内容とする。

内容；概略して要点を記すれば下記の通りである。

- A. Der Prozeß der Planung und Kontrolle
- B. Kosten und Kostenkontrolle
- C. Die Aufgaben der einzelnen Leistungsinstanzen bei der Kostenkontrolle
- D. Die Bestimmung wirtschaftlich optimaler betriebstechnischer Verfahrensbedingungen
- E. Die Stellenerfolgsrechnung als Instrument der Kontrolle Wirtschaftlicher Betriebstätigkeit
- F. Verfahrenswahe und langfristige Kostensteuerung.

管理科学(経済Ⅱ) (日本ソフトウェアKK) 非常勤講師 穂鷹良介

前年度開講の管理科学(経済Ⅰ)に引き続き、主に数理経済学について講義する。

具体的な内容としては今迄に私の研究して来た諸分野を、私の論文を中心としてお話しする。

管理科学Ⅰ 助教授 戸島 潤

管理科学研究指導Ⅰを参照されたい。

管理科学(生産Ⅱ) 前期教授 古瀬大六

自動制御理論とその経済、経営への適用

テキスト

高橋安人「システムと制御」¥ 1.500 岩波書店

管理科学Ⅱ

教授 古瀬大六

各種OR技法とその電子計算機による解法  
テキスト

「ORと電子計算機」日科技連出版社 ¥ 1.300

管理科学特講Ⅰ

前期 助教授 清水川 緋紗子

<使用(予定)テキスト>

- ① 『CÖBÖL入門』渡辺昭雄(日刊工業新聞社)
- ② A Guide to PL/1 For Commercial Programmers, Student Text. Form C 20-1651.

機械化会計

助教授 藤田 芳夫

43年度に事務機械化を履習した学生を対象とし、次の三点を主な内容とする講義および演習を行います。

- 1. 会計的情報処理の主要類型
  - a. 売掛金処理の基本的構造とプログラミング
  - b. 購入手続と買掛金処理の基本構造およびそのプログラミング
  - c. 賃金給料会計の基本構造とプログラミング
- 2. 電子計算機会計と監査
- 3. 機械化会計と情報の利用
  - a. 電子計算機とコントローラー
  - b. 行列簿記
  - c. 具体的方法若干例

事務機械化と同様、演習が多く、それを重視します。演習の不十分なものは試験を受ける資格を認めません。

参考文献

- 1. J. B. Heckert, H. D. Kerrigan, Accounting Systems, 3rded., Ronald Press, 1967, ¥ 4,800

2. a. F. Kaufman, *Electronic Data Processing and Auditing*, Ronald Press, 1961, ¥ ?
- b. W. S. Boutell, *Auditing with the Computer*, Univ. of California Press, 1965, ¥ 2,000  
(邦訳あり)
- c. W. T. Porter, *Auditing Electronic Systems*, Wadsworth, 1966, ¥ 1,120
3. a. T. F. Bradshaw, C. C. Hull (ed.), *Controllershship in Modern Management*, R. D. Irwin, 1949, ¥ ?
- b. D. R. Anderson, L. A. Schmidt, *Practical Controllershship*, R. D. Irwin, 1961, ¥ 3,580
- c. R. M. Cyert, J. G. March, *A Behavioral Theory of the Firm*, Prentice-Hall, 1963, ¥ 4,380  
(邦訳あり)
- d. W. Beranek, *Analysis for Financial Decisions*, R. D. Irwin, 1963, ¥ ?

## 事務機械化

助教授 藤田 芳夫

本年度も以下に示すように会計事務の機械化、あるいは簿記的事務機械化を中心に、講義する。なお、前年度より多少の改善を加えようとした、

1. 電子計算機と事務処理および事務の機械化 (へり穴カードの実習を含む)
2. 電子計算機複式簿記 その1 試算表の廃止
3. 電子計算機複式簿記 その2 仕訳帳の廃止
4. 電子計算機複式簿記 その3 決算
5. 販売会計の基本的構造
6. 電子計算機販売会計  
電子計算機複式簿記 その4 仕訳の廃止
7. 在庫管理とシミュレーション

基準履修年度が2年度生であることを考慮して、複式簿記の原理およびフオートランについては説明を行います。したがって、この点を心配する必要はありません。

注意………演習が非常に多く演習結果を重視します。演習が充分でないものは、試験を受ける資格を認めないから、予め承知しておくこと。

## 応用数学 (代数)

助教授 沼田 久

管理科学のために必要な代数学、すなわち、行列、行列式、ベクトル空間、線型不等式、線型計画等について一応の知識を与えることを目的とする。高等学校的数学の得手不得手とはあまり関係はないが、若干の抽象的思考の能力または根気が必要である。

参考書：古屋 茂 行列と行列式 (培風館)

大学数学教育研究会編 行列とベクトル (共立出版)

佐武一郎 行列と行列式 (裳華房)

二階堂副包 経済のための線型数学 (培風館)

## 応用数学 (解析)

担当者未定

## 応用数学 (統計 I)

助教授 神田 祐一

最初の数回の講義においてはきわめて常識的な数理統計学の要約を行い、そののち履習者諸君の理解力をたしかめるため数回テストを行なう。

それから下記の本に従って講義を行ってゆくことにする。

記

D. A. S. FRASER : *The Structure of Inference*, Wiley, '68.  
私にはかなり難解なように思われますから、諸君は受講の際に図書館 (在庫しています) から借入して目をとおしておかれることを希望します。

また本年度からこの科目は必修でなく選択となりますので、履習するかしないかは自由となります。私としては小人数を希望します。

なおテキストの複雑のため、この講義において用いるテキストの3つのパ

ートのうち PART I ~ PART II のみを修了するつもりです。

## 応用数学 (統計 II)

助教授 神 田 祐 一

応用数学 (統計 I) において用いるテキストのうち残りの PART III (EXTENSIONS) を中心に講義する。

## 応用数学特講 II

後期 助教授 沼 田 久

詳細は開講時に通知する。

## 計算機論 I

助教授 清水川 緋紗子

System Program の基礎 (マシン語及びアセンブラー言語) を学習する。FORTRAN 語, ALGOL 語は各自で自習すること。(自習に適したテキストは数多くあるが, 例えば, 森口繁一著「FORTRAN 入門(上),(下)」(東大出版会), 森口繁一著「ALGOL 入門」(日科技連) 等がある)。

<使用テキスト>

『電子計算機のプログラミング』一松信著 (日本評論社) ¥ 1,500

## 計算機論 II

助教授 戸 島 熙

ACM の C<sup>3</sup>S が recommend している CURRICULUM 68 [1] の Compiler Construction の Course を, 主として Formula translation に中心をおいてとりあげる。そのさい, 次の様な順序で講義をすすめる。

### 0 序 論

- 0-1 計算機内部の情報表現
- 0-2 compiler 作成の歴史
- 0-3 compiler の構造

### I 数式翻訳とは何か

- I-1 計算機の記憶装置
- I-2 計算機の四則演算
- I-3 ACC と記憶装置のやりとり
- I-4 symbolic address
- I-5 数式の計算
- I-6 数式翻訳

### II Symbol table の作成

- II-1 symbol table
- II-2 symbol table への登録と検索
- II-3 constant table

### III Reverse Polish Notation

- III-1 数式翻訳と operator の優先順序
- III-2 Reverse Polish Notation とは何か
- III-3 完全括弧式から Reverse Polish Notation へ
- III-4 shunting yard model
- III-5 完全括弧式のつくり方
- III-6 normal algebraic form から Reverse Polish Notation へ

### IV object code generation

- IV-1 Reverse Polish-Notation から object code へ
- IV-2 normal algebraic form から object code へ
- IV-3 load と store の省略
- IV-4 unary minus の問題
- IV-5 stack の使用
- IV-6 efficient object code の generation

### V 数式翻訳の拡張

- V-1 添字付変数を含む算術式
- V-2 関数を含む算術式
- V-3 条件付算術式
- V-4 ACC と index register が多数ある場合



V-5 mixed mode の算術式

VI 論理式の翻訳

VII compiler writing system について

引用文献

「1」 CURRICULUM 68, *Communications of ACM*, Vol 11, No. 2 (March, 1968), pp. 151-197.

憲 法 後期 非常勤講師 秋 山 義 昭  
(小樽商科大学短期大学部講師)

民 法 I 助 教 授 中 川 良 延

民法Iの範囲は、いちおう民法典の編別によって、第一編「総則」および第二編「物権」である。「総則」は民法全体の基本原則であるとともに、資本主義社会における取引秩序の基礎的な法概念を規定するものとして重要である。また「物権」の中心は所有権であるが、いうまでもなく所有権に関する規定は私有財産秩序の基礎法である。したがって民法Iでは、このような基本的法概念および論理の理解に努めたい。

テキスト：谷口知平・於保不二雄編「民法概説1」(有斐閣双書)

参 考 書：民法基本判例集 一粒社

民 法 II 助 教 授 中 川 良 延

民法IIの範囲は「債権」である。「債権」は民法典の体系によると、債権総論と債権各論に分けられ、「契約」は各論の一部を構成している。しかし講義は、この体系によらないで、契約を中心にし、その中で総論的部分を織り込んで進めて行きたい。なお、「物権」の一部を成している担保物権は、実際上金銭消費貸借と関連して問題とされるので、ここで人的担保と併せて取扱うことにする。

テキスト：谷口知平・於保不二雄編「民法概説2」 有斐閣

参 考 書：民法基本判例集 一粒社

労 働 法

助 教 授 加 藤 俊 平

労働法という法現象は、労働者と使用者の対抗関係(社会現象)を反映する法現象である。それ故に、この法現象を把握する際、社会現象のみに焦点を合せ、そこだけをことさら拡大して考察する傾向が少なくない。いなむしる、その考察のみで法現象としての労働法の考察は足りるという考え方が、とくに戦後日本の学問を支配している。

このような考え方は、正しくない。少なくとも、このような考え方では、労働法が他の市民法現象と異った原則、原理をもつものかどうかを把握することはできないし、日本の労働法現象が他の資本制社会におけるそれとの共通点あるいは相違点を発見することはできない。

われわれは、本講義において、市民法現象のなかで労働法現象にどれほどの固有の原理を発見できるのか。そしてその原理が今日の資本制社会においていかにどの通用力をもたらすのかを発見しようとする。

教科書としては、一応、外尾健一：労働法入門(有斐閣)を使用する。

参考文献は講義のつど指摘するが、少なくとも、白井泰四郎：企別組合(中公新書)、藤田若雄：新版第二組合(東大出版)は読んでおくこと。

商 法 I

学 長 實 方 正 雄

商法は、資本主義社会における資本制企業を対象とする法である。そのうち、商法Iは、商法典中の商法総則および会社法を中心としたものである。講義は、私の商法理論体系にしたがい、資本法としての歴史的機能を有する商法の意義や、資本制企業の法律的構造一般の問題を取扱い(商法総則)ついで、企業形態の法(会社法)ことに会社企業の諸法形態に論及する。この企業形態法については、現代資本主義社会の中核体たる株式会社を中心とし、とくにその諸法制度のもつ経済的実践的機能を追及して、その持つ歴史的意義を分析したいと思っている。なお、株式会社との比較対照において、合名会社、合資会社、有限会社にも触れながら、わかり易く説明を続けてゆくつもりである。

教科書としては、旧式な筆記の労をはぶくため、私の書いた講義案「再訂

商法講義」を使用する。この書物は、講義案たるの性質上、簡明にすぎ、やや難解であるから、講義では、平易にかみくだいて、ときには重要判例などをとりあげながら、解説するつもりである。したがって、私の教科書を読むだけで、商法の内容や、私の理論や立場を十分に理解することは、きわめて困難であらう、ということに注意しておく。

商 法 II 講 師 齊 藤 武

株券についてその法的側面を研究する。

参考文献については講義中に適宜紹介するが、教科書としては特定しない。

経 済 法 前期 非常勤講師 (北海道大学法学部教授) 丹 宗 昭 信

国 際 法 教 授 桑 原 輝 路

国際機構論 講 師 大 谷 良 雄

本年度は、とくに国際連合についての講義を行います。

- I 国際連合の理念の現実
- II 国際連合の機構
- III 国際連合の機能

## 6 教 職 科 目

教 育 原 理 教 授 田 中 昭 徳

教 育 心 理 学 非 常 勤 講 師 (北海道大学教育学部講師) 若 井 邦 夫

◎テキスト 岡部・沢田編教育心理学〔新版〕東京大学出版会

第I章 序 論

- 1 教育と心理学的認識
- 2 教育心理学の対象・領域

第II章 発 達

- 1 発達の基礎的諸問題
- 2 発達の原理
- 3 身体的・知覚運動的発達
- 4 知的発達
- 5 情緒の発達
- 6 社会的行動の発達

第III章 学 習

- 1 学習の定義
- 2 学習と成熟
- 3 学習と動機づけ
- 4 学習の過程
- 5 学習の転移
- 6 学習の理論

第IV章 人 格 と 適 応

- 1 人格の定義
- 2 人格形成の諸条件
- 3 要求不満と適応
- 4 人格の諸理論

第V章 測 定 と 評 価

- 1 測定・評価の意義
- 2 能力の評価
- 3 学力の評価
- 4 人格の評価

#### 第VI章 指導

- 1 学習指導の基礎的諸問題
- 2 学習指導法
- 3 生徒指導

#### 第VII章 学級社会の心理

- 1 集団の構造と機能
- 2 児童・生徒の相互関係
- 3 教師と児童・生徒の関係

### 商業科教育法

非常勤講師 渡辺羊三  
(札幌大学教養部教職課程講師)

#### I 商業教育の概念

- 1 商業教育の意義の変遷
- 2 商業教育と他の教育
- 3 商業教育の目的およびその内容
- 4 商業教育の目標

#### II 商業教育の沿革

#### III 商業教育と職業指導

#### IV 商業教育の機関

#### V 教育課程

- 1 教育課程の原理と編成
- 2 商業教育課程の変遷と編成

#### VI 学習指導法および評価

- 1 学習指導の意義および類型
- 2 商業科の学習指導

- 3 評価の意義および目的

- 4 商業科における評価

#### VII 商業教育の施設・設備

#### VIII 高等学校における職業教育の多様化と商業教育

#### 参考書：

武市春男 新版商業教育論 国元書房  
初又才次郎 高等学校商業教科教育法 理想社  
奥村恒夫 新訂商業教科教育法 大明堂  
大基隆治 高等学校商業教育論 市ヶ谷出版社  
その他についてはそのつど指示致します。

### ※教育実習

教授 石河英夫

### 教育史

教授 田中昭徳

- I 明治維新前後の教育状況
- II 「近代」教育の発足
- III 天皇制教育の体制化
- IV 日本資本主義の形成と教育
- V 大正デモクラシーと教育
- VI 日本資本主義の危機と教育
- VII 日本ファシズムの教育体制
- VIII 戦後の教育
- IX 現代教育の歴史的課題

### 職業指導

非常勤講師 石井茂  
(北海道教育大学札幌分校教授)

はじめに、講義を進めるに当たっての問題提起として、職業指導の問題所在についてふれ、以下それにもとづいて講義を展開していくとともに、今後の

実践の方向をさぐることにしたい。

- 一、問題提起—職業指導の問題所在
- 二、進路指導と職業指導
- 三、一般教養と職業指導
- 四、職業指導の史的考察
- 五、職業指導の理論
- 六、企業と教育
- 七、職場における人間関係
- 八、経済計画と教育計画
- 九、職業指導の実践問題

以上の要領で進める予定であるが、展開に変更あるやも知れないこと  
をおことわりしておく。

## 英語（上級Ⅰ）

助教授 武本昌三

内容：講読（英語の歴史と特質について）

テキスト

Earnest Weekley, *The English Language* (成美堂版) ¥ 350

## 英語（上級Ⅱ）

助教授 永原和夫

Text: James Joyce, *A Portrait of the Artist as a Young Man* (英潮社ペンギン・ブックス) ¥ 430

ジェイムス・ジョイスは1882年アイルランドに生れ、厳格なイエズイットの教育を受け、一時医学を学んだが、激しい憎悪と愛着が拮抗する心をもって祖国をすて、芸術を志ざし、後に *Ulysses* (1922) の斬新かつ難解な表現方法で文学界に一大センセーションをひき起した。

本書は彼の少年から青年に至る「若き日」の、自我の生長を跡づけたもので、かなり自伝的要素を含んでいる。一青年の悩める魂が神への憧れと性、家庭、政治等の誘惑から逃れて、芸術への道を発見するに在る成長過程を、巧緻を尽して描きこんだ一種の教養小説の傑作である。

伝記と Fiction の問題を考えながら、特に作品の象徴と構成に留意して味読したい。参考書はそのつど指示する。

## 英語学Ⅰ

非常勤講師 岡野 哲  
(北海道大学文学部助教授)

(Textbook) R. M. Zandvoort: *A Handbook of English Grammar*, pp. 364, ¥ 650.

(Maruzen Asian Edition)

- I Conversion (pp. 302ff)
- II Word Formation (pp. 316ff)
- III Nouns (pp. 107ff)
- IV Pronouns (pp. 149ff)
- V Verbs (pp. 7ff)
- VI Adjectives and Adverbs (pp. 218ff)
- VII Concord (pp. 291)
- VIII Sentence Structure (pp. 226)
- IX Order of Words (pp. 270)

### Ⅲ 研究指導要項

教授 麻田 四郎

- 研究主題； 国際経済学，理論経済学，経済政策の分野における問題  
第一年度（3年次） 適当な原書（英語）を選び，輪読会形式で原書講読力を涵養する。
- 第二年度（4年次） 学生個人の選んだ個別テーマについての指導。

教授 安孫子 麟

#### 1 研究主題

歴史理論および日本経済史に関する諸研究。日本経済史と日本経済論の区別は，事実上ないと思う。しかしこのゼミナールでは，日本資本主義発達史の観点からのアプローチに限りたい。また，農業経済学に関連する問題も，同様の観点からのみ取上げ，一般的な農業経済問題は，取扱わない。

#### 2 指導要項

- (イ) 全般 歴史・経済理論の基礎を理解させるために，テキストの精読に重点をおく。その上で，事実（史料，統計）をどう扱うかを考え，歴史分析の方法の理解を深める。
- (ロ) 3年次，テキストは栗原百寿「農業問題入門」2～4章。これは歴史理論の書である。
- (ハ) 4年次，幕末期の農民層分解，維新論，日本資本主義発達史などをテーマに，平野義太郎「日本資本主義社会の機構」をよむ。必要に応じ，個別論文もとり上げる。後半で卒論指導に重点をおく。

#### 3 履修要件

経済理論を身につけてきてほしい。経済学特殊問題を履修し，十分に勉強しておかないと，歴史理論は理解できない。単に，歴史が好きだけでなく，経済学を勉強しているということを忘れないように。

#### 4 テキスト

上記のとおり。

教授 竹内 清

#### 1 研究主題

統計学及びその関連分野の問題。（統計学，経済統計学，数理統計学，OR，計量経済学等）

#### 2 指導要項

- (イ) 全般 真摯な態度で，学問研究に取り組むように学生を指導する。
- (ロ) 3年次 B. W. Lindgren, Statistical Theory, 1968 をテキストとして使用。問題を解くことを中心として数理統計学に関する学生の実力が向上することを眼目とする。
- (ハ) 4年次 卒論と関連して，学生各自は個別テーマについて，研究発表すること。学生相互のディスカッション等を通して卒論作成の指導に主眼を置く。

#### 3 履修要件

数学が好きで，相応の能力を発揮できる者が望ましい。

#### 4 使用テキスト

3年次のテキストは上記参照。4年次の卒論作成に当たっては，原書あるいは外国の雑誌論文を主として参照するようにする。

教授 藤井 栄一

◦ 研究主題；理論経済学

◦ 指導方針

全般 講義と報告による。

第一年度（3年次） 主として，基本的な分析手法になれ，今までに導かれている諸結果について大体の知識を得ることを主な目的にする。

第二年度（4年次） 前半は第一年度と同じ。後半は個別テーマの報告とそれについての討論。

◦ 使用テキストおよび参考書 詳細は別に指示するが，かなり多くの図書を必要とし，また，読まなければならない論文の数も多い。

◦ その他； 報告の準備のために，十分な時間の余裕が必要である。また，経済学についての一般的な知識，したがって，ある程度までの問題意

識がないと、自然に途中で履修をやめなければならなかったり、または、卒業論文が期間内に完成しないことに、必ずなります。

### 教授 吉 武 清 彦

- 研究主題； 社会政策，工業経済学
- 指導方針  
第二年度（3年次） ケインズの経済学についての研究。  
第二年度（4年次） 前半は下記のテキストをよみ，後半は卒業論文の個別発表。
- 使用テキストおよび参考書  
第二年度 ディラード『ケインズの経済学』（東洋経済社出版 600円）
- その他； 第一年度 A. V. Dicey, *Law and Public Opinion in England* (London, 1905), (値段18s. 1000円程度ペーパーバック)
- 無届け欠席を3回連続した場合，除名されることがありうる。
- 語学関係（第1，第2外国語）及び経済学概論，経済史概論第2年終了時において履修済みであることを条件とする。

### 助教授 漆 崎 健 治

- 研究主題； 金融経済論  
(主として近代金融理論および貨幣的経済理論)
- 指導方針  
全般 経済の貨幣，金融的諸問題に関し，各自十分な事前準備報告，及び活発な討論を通じて，その正しい理解に達することを目的とする。  
第一年度（3年次） 貨幣経済理論及びその関連分野のテキストを中心に，各自分担報告，討論および外国書の輪読。  
第二年度（4年次） 金融経済理論関係の外国書の読書会（前半），次いで卒論と関連して，各自個別テーマについての研究報告，討論，指導を通じて，卒論をまとめる。（後半）
- 使用テキストおよび参考書  
三年目ハート及びケネン（吉野昌甫・山下邦男訳）：現代金融論，日本評論社

### 助教授 早 見 弘

政府予算政策の理論的研究。44年度は左のテーマに先立って，マイクロ分析の学習から始める。その後，財政問題に入っていく。

- 指導方針  
全般； ゼミの進め方は，予め予習のうえ，即座に訳読の訓練や内容の把握を求めたりする。担当個所を割当てて，報告をきくこともある。  
第一年度（3年次） 以下のテキストをよむ。終了後，財政問題についての英語文献をプリントして配布。その中から任意に選択して報告。  
第二年度（4年次） 卒論の内容に沿って報告。
- 使用テキストおよび参考書  
G. J. Stigler, *The Theory of Price* (macmillan, 1964) 3rd ed.
- その他； 経済学概論を履修済みのこと。  
例年，10名以下。出席率良好。今後もこの2点は維持する。

### 助教授 松 田 芳 郎

1. ヨーロッパ近代（1890—1930年代にここでは限定）の経済理論の発展と社会思想の展開を日本のそれとの対比のうえで研究する。（細かな本文批評を行ないながら，発火点となった文献そのものを読みながら考える。
2. 主セミナーとサブセミナーに両方出席し，地味な忍耐力をもって講読に参加し報告することが義務づけられる。
3. 3年次，a)・b)輪読会  
A. Marshall: *Principles of Economics* 1890 (Guillebaud's edition)  
H. Stuart Hughes: *Consciousness and Society; the reconstructing of European social thought, 1890-1930* 1958  
4年次 a) (輪読会)  
Firmin Oules (éd.); *L'Ecole de Lausanne; textes choisis des Walras et Pareto.* 1950  
b) 個別テーマ
4. 経済学概論・経済原論・統計学の履修済み履修完了予定者。

5. ゼミナール参加希望者は（私が指導出来ないので）スペイン語以外の第1・第2外国語の簡単なテストを受けること。
6. いわゆる（計量経済学）をゼミナールで研究したいものは、応用数学等を履修のうえ、管理科学科の演習（経済）に参加するか経済学科の統計学の演習に参加することが学問研究のあり方として望ましいと思うので本演習には参加させない。本演習は（計量経済学）研究の予備作業である経済理論の初歩的研究作業に留める。

### 助教授 井上 巽

- 研究主題； 西洋経済史。特にイギリス帝国主義の研究。
- 指導方針  
全般； 研究書の正確な読み方の修得を通じて学問研究の基礎的能力を養う。  
第一年度（3年次） イギリス資本主義分析に関するテキストを用いて、当該資本主義の基本的特徴の把握をめざす。各自の研究テーマを早期に決定するよう強力に要請・指導する。  
第二年度（4年次） 前半はイギリス帝国主義に関するテキストの検討を通じて、昨年度の研究成果を理論的に総括することをめざす。後半は卒業論文指導。
- 使用テキストおよび参考書  
3年次 吉岡昭彦編著『イギリス資本主義の確立』（御茶の水書房）、その他。  
4年次 遠藤湘吉編『帝国主義論』下（東京大学出版会）

### 教授 武隈 良一

- 研究主題； 数理統計学または経営統計学に関するもの。
- 使用テキストおよび参考書  
本人の希望をきいて決定する。
- その他；（履修要件）

語学関係科目（第1，第2外国語）および数学を第2学年修了時ににおいて履修済みであること。

### 教授 石河 英夫

- (1) 研究主題； 会計学（財務会計・商法会計・原価計算・監査論のうちいずれかを各自選択）の研究。
- (2) 指導方針  
(イ) 全般  
(1) 会計学の輪郭の把握と基礎理論の理解のための指導  
(2) 外国文献（英文）の講読  
(3) 研究報告ならびに卒業論文作成の指導  
(4) 学問研究を媒介としての個人的接しよく  
(ロ) 3年次 この(1)のため、前半において会計文献（和書）を輪読する。後半には(1)の研究主題の領域中より各自テーマを自由選択せしめ、研究の指導と報告をさせる。  
(ハ) 4年次 (ロ)に引続いて各自の研究の指導と報告。外国文献の講読
- (3) 履修要件 みだりにゼミナールの時間欠席するものは申込まざること。
- (4) 使用テキストおよび参考書  
太田哲三「新稿会計学（補訂版）」（千倉書房）外国文献については学生と合議のうえ決定する。（価格、能力などの点から）

### 教授 伊藤 森右衛門

- 研究主題 トップ・マネジメントの職能を中心に全般管理の原則的な研究を行う。
- 指導方針  
全般； 原書や論文を講読し、それらを中心にディスカッションを行うとともに、実地研修を通じて理解を深める。  
第一年度（3年次） 原書講読，テーマ別レポート，ディスカッション。  
第二年度（4年次） テーマ別の論文紹介，ディスカッション，卒論指導

◦使用テキストおよび参考書

テキストおよびサブ・テキストはその都度選定する。

- その他； 1. ゼミナリストンは皆出席を条件とし、欠席の場合は幹事を通じて届出すること。

## 教授 齊藤 要

- 研究主題； マーケティング時代における商品の市場性を品質要因、価格要因、販売活動要因（広告など）関連づけて追求する。

◦指導方針

全般； 商品の自然的属性と社会的属性とを社学会学的方式で統合するための基礎理論を学ぶ。

第一年度（3年次） 入門書的なテキストを講読し、商品とマーケティングに関する基本的知識とその応用能力を養う。

第二年度（4年次） 個人テーマによる文献講読と研究指導

◦使用テキストおよび参考書

L. Abbott: *Quality and Competetion* (1965)

飯島養郎：品質基礎理論

その他商品マーケティングに関する参考書

- その他； ゼミナール参加希望者は、第2年終了時において語学（第1，第2外国語）及び基礎教育科目の単位を取得した者。  
無届欠席をしない者であること。

## 助教授 石原定和

- 研究主題； 貨幣理論、信用理論をへて擬制資本運動の研究にいたる。

具体的に云えば、手形、小切手などの再生産過程における必要貨幣量の節約のために生成発展した信用諸用具の研究。つぎに現代の資本主義社式における経済活動の活発化にともなって所要資本量が巨大になるにつれ、いわゆる資本の集積、集中を媒介する手段として発展してきた資本信用の内容（たとえば株式、社債等）を検討する。

◦指導方針

全般； 上記分野にかんする原書の講読、報告、討論をつうじて、学問研究の基本的姿勢を把握し、さらに金融資本支配の現代的意義を解明するに可能な知識を獲得しうるべく努力する。

第一年度（3年次） 貨幣の本質と機能、商業信用と銀行信用の役割の研究。

第二年度（4年次） （前期）資本信用の研究につづいて、金融資本と株式会社制度の関連性を検討し、現代資本主義における支配と所有の構造を追求する。

（後期）個別テーマによる卒論の作成。

◦使用テキストおよび参考書

K. マルクス「資本論」（商品と貨幣、商人資本、利子生み資本）

R. ヒルファディング「金融資本論」

P. スイージー「資本主義発展の理論」

スイージー・バラン「独占資本」

## 助教授 久野光朗

- 研究主題； 会計学、小生自身は会計原則構造論、簿記・会計発達史、貨幣価値変動会計、経営分析などの諸分野に関心を抱いています。

◦指導方針

全般； 会計に関する基本的知識を与えかつ応用能力を養なう。

第一年度（3次年） わが国の「企業会計原則」の研究と外書講読を中心にして基礎理論を修得させる。

第二年度（4年次） 卒業論文の指導——各人の発表をもとにして討論を行なう。なお、必要に応じて文献を紹介する。

論文提出後、オーラル・クエスチョンをする。

◦使用テキストおよび参考書

3年次 *Louis Goldberg, An Inquiry into the Nature of Accounting* (Menasha, American Accounting Association, 1965), pp. 369.



- その他； 熱心にゼミへ参加し、活発に討論をし、ゼミをもりたてていくことを望む。

## 助教授 河野 二 男

### ◦研究主題； 会計学とくに管理会計

1. 財務会計についてはドイツの動的会計論の構造及びその展開に限定する。とくにその学説研究。
2. 管理会計についてはその全般にわたり、業績評価会計（経営統制会計）と意思決定会計論（経営計画会計）とを内容とする。具体的にいえば、製造原価・営業費のコスト・コントロール、コスト・マネジメント、費用理論、計画原理計算論、設備投資計算、利益計画、経営計画、責任会計などである。計算技法の側面からいえば、標準原価計算、直接原価計算、予算統制、経営分析、経営比較、O.R.I.E.L.P.V.A.等が対象となる。

### ◦指導方針

全般； 上記の研究主題の全領域を理解する。

第一年度（3年次） 上記研究領域を中心に基礎的知識を修得させ、希望に応じてグループに区分し討論を通じて指導する。その際に、日本文献とアメリカの雑誌とを適当に併用する。また、必要に応じてテーマごとの講義を行なう。

第二年度（4年次） ドイツ文献雑誌論文を使用しながら、研究テーマを決定させ、各個の報告を通じて指導を行ない、卒論の完成に導くための指導を適切に行なう。その際に卒論は、アメリカ文献・雑誌論文か、ドイツ文献・雑誌論文のいずれか、またはその併用となるが、資料便宜も計る。

### ◦使用テキストおよび参考書

研究領域の全般について文献を入手するが、その細目は所属決定後、全員に指示する。雑誌は主として NACA Bulletin, NAA, Management accounting, Zeitschrift für Betriebswirtschaft, Schmalenbachs Zeitschrift für betriebswirtschaftliche

Forschung, で、外国文献はテーマごとに各人に指示する。

- その他； (1) 2年次に簿記学、英語、ドイツ語を既に履修済で優秀な成績を修めたもの、またはその可能性あるもの。
- (2) 学習意欲あり将来、経営会計専門家、職業会計人、または研究者をめざすものを主体とする。ゼミ欠席は認めない。
- (3) ゼミナリステンとして同学の志との調和性があり、礼儀正しきもの。
- (4) 教材並びに文献等の費用がかさむため、比較的に経済的余裕のあるもの。
- (5) 利己的で狭量な、しかも過度に神経質、または無神経な学生は遠慮されたい。
- (6) アルバイトをする時間的余裕はないと考えられたい。クラブ活動にたいしても同様である。

## 助教授 篠崎 恒 夫

- 研究主題； 企業経営における経営管理および経営組織の批判的検討を主題とする。但し、各人が選定する卒業論文のテーマの範囲は、必ずしもこの枠内に限定されず、経営学本質論、生産管理論、労務管理論などに及ぶことが出来る。

### ◦指導要領

全般； 経営学の基本理論の学習を通じて、広く現代企業経営の諸問題を批判的に検討する。

第一年度（3年次） 経営学の基本概念を方法論考究を通じて体系的に習得する。レポートと討議により「経済と経営」（経済学と経営学）「経営と企業」「経営管理」「管理と組織」の順に基礎概念を考究する。

（前半）。次に、近代管理論、特に意思決定論の解明のために原書の講読を行なう（後半）。なおテキストは下記参照。

第2年度（4年次） 個別テーマにもとづいて卒論作成指導を行なう。

- 履修要件； 基礎履修科目として経済原論（近代経済学ならびに政治経済学）、経済学特殊問題、経営経済学を履修済み又はその途次であること。

◦ 使用テキスト

稲葉 襄：経済学

経営学研究グループ：経営学

March and Simon：Organizations, 1958（なお本書講読のサブテキストとしては、バーナード「経営者の役割」、サイモン「経営行動」）

- その他； 真理に対する厳正な態度と情熱，学問の共同研究における協調性が特に要求される。

助教授 鈴木 満 直

- 研究主題； 金融論（広義）

◦ 指導要項

3年次，講義と報告。4年次，卒業指導。

3年次のテキストは A. H. Hansen, A Guide to Keynes を使用。

- 履修要件 英語で金融論関係の文献を読めること。

- 使用テキスト 上記のとおり。

助教授 増 山 英太郎

- 研究主題； 計量心理学的手法による企業内の問題の解決。

◦ 指導方針

全般； 産業心理学を研究する手法にはいろいろあるが，近年最も有力視されているのは数学的手法である。そこで，本ゼミでは，産業心理学の問題をどのような数学的手法によって，どのように解決していくかの考え方を習得することを目的とする。フォートラン・プログラミングに関する勉強をも必要に応じて行う。

第一年度（3年次） 問題別にゼミ生をいくつかの班に分け，適当な入門書を班別に選択し，発表形式で内容の理解を行う。進度によっては，雑誌論文を読ませる。

第二年度（4年次） 3年次の学習に基づいて，卒論の題名を決定させ

る。その題名のもとに文献を収集させ，時間の許す限り読解させ，出来れば実験を通じて卒論を書かせる。

- 使用テキストおよび参考書

問題別に，適当な参考書を，後に指示する。

- その他； 本研究主題に興味をもち，真面目で，きびしい指導に耐えられる者。

教授 桑 原 輝 路

助教授 加 藤 俊 平

- 研究主題； 44～45年度“争議行為の比較法的研究”。各国の争議行為法を比較研究することにより，最終的には，第二次大戦後わが国における争議行為の法理を整理・分析し，その体系化を試みる。

◦ 指導方針

全般； 裁判例および学説の整理・分析，実態調査（特殊争議につき），外国法文献研究

第一年度（3年次） ① Grundfeld, Modern Trade Union Law; Hueck: Nipperdey, Grundriß des Arbeitsrechts; (ないし Camerlynck, Syndicats) の“争議行為”の部分。

② 労使関係研究会，「労使関係法運用の実情および問題点(3)」(日本労働協会)。

第二年度（4年次）：

① 労働関係民事裁判例集中の判例。

② 資料労働運動史（労働省）

③ Kahn Freund, Labours Relations and the Law, の争議行為の部分。

- 使用テキストおよび参考書

洋書，判例集については“リコピー”を考えている。

- その他； 1. 45年度も，引きつづき本テーマでゼミを行なう。2. 本ゼ

ミでは、3年次および4年次生について独立したゼミをおこなわない。

### 助教授 中川良延

◦研究主題； 契約法の研究 —— 契約責任を中心として ——

◦指導方針

全般：契約法の歴史的ないし法社会学的考察を行なった上で、現行の契約法の解釈論にまで及ぶ。

第一年度（3年次）歴史的ないし法社会学的研究のための文献を読む。

第二年度（4年次）判例研究を通じて解釈学をやる。

◦使用テキストおよび参考書

Rheinstein, Max Weber on Law in Economy and Society

[Harvard Univ, Press] 中の契約に関する部分。

その他参考書等は適宜に指示する。

### 講師 齊藤 武

◦研究主題； 商法

◦指導方針

全般； 輪番制による報告とそれについての討論

### 管理科学研究指導Ⅰ

助教授 戸島 潤

数学的計画法 (mathematical Programming) の theory と algorithm を理解するために、次の論文を予め解説したうえで、これらの輪読を行う。

[3] はもっとも基本的な文献である。[1] は [3], [4] を一般化したものである。[2] は最近の成果で、興味ぶかい論点を含んでいる。

[5] は algorithm に関するものである。

### 引用文献

[1] Arrow, K. J., L. Hurwicz and H. Uzawa, "Constraint

Qualifications in Maximization Problems," *Naval Research Logistics Quarterly*, Vol. 8, No. 2 (June, 1961), pp. 175-191.

[2] Gale, D., "A Geometric Duality Theorem with Economic Applications," *Review of Economic Studies*, Vol. XXXIV (1), No. 79 (January, 1967), pp. 19-24.

[3] Kuhn, H. W. and A. W. Tucker, "Nonlinear Programming," in J. Neyman (ed. by), *Proceedings of the Second Berkeley Symposium on Mathematical Statistics and Probability*, University of California Press, Berkeley and Los Angeles, 1951, pp. 481-492.

[4] Uzawa, H., "The Kuhn-Tucker Theorem in Concave Programming," in K. J. Arrow, L. Hurwicz and H. Uzawa (ed. by), *Studies in Linear and Non-Linear Programming*, Stanford University Press, Stanford, California, 1958, pp. 32-37.

[5] Uzawa, H., "Iterative Methods for Concave Programming," *Studies*, pp. 154-165.

### 管理科学研究指導Ⅱ

教授 古瀬 大六

下記テーマについての研究及び卒業論文作製

オペレーションズ・リサーチ

電子計算機とOR

経営システム分析・設計

情報管理

政治と情報

社会と情報

組織と情報